

# 令和3年度年報

(2021年度)



国立療養所多磨全生園

## 序文～令和3（2021）年度年報発刊に寄せて

国立療養所多磨全生園 園長 正木 尚彦

皆さんのお手元に国立療養所多磨全生園の令和3（2021）年度年報をお届け出来ましたことを大変嬉しく思います。私は石井則久前園長の後任として令和3（2021）年4月に当園に赴任致しましたので、慣れぬ園長職一年目の諸活動の成果がどうであったか、大いに気になるところでございます。まずは、本年報の編集作業に関わられた多くの園職員、そして編集委員会委員の方々のご尽力に心から感謝申し上げる次第です。

令和3（2021）年度は、前年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症蔓延による第4波さらに第5波の感染者数・死亡者数の急増を認め、緊急事態宣言も第3回（4～6月）、第4回（7～9月）の2回発出されました。そのため、当園の主要行事の大部分について規模縮小、WEB形式、さらには中止を余儀なくされました。納涼祭や全生園まつりも園内部だけの催しとなり、園外部との交流がきわめて希薄になりました。ただ、5月中旬以降には職員、入所者さんへの新型コロナワクチン接種を目立った副反応を認めることもなく実施でき、7月13日には、東京オリンピック聖火リレーの代わりに近隣五市住民参加のトーチキス、平沢保治さんによる点火セレモニーを当園で開催することができました。平沢さんは、ハンセン病療養所である当園においてこの催しが行われる意義、ならびに人と人との融和の重要性を世界に向けて力強く発信されました。令和3年度は入所者さんに一人の感染者もお出ししなかった一年でしたが、これもひとえに入所者さん、職員の皆さんのご理解とご協力の賜物であると、厚く御礼申し上げます。

当園は明治40（1907）年の「癩予防ニ関スル件」に基づき、明治42（1909）年に第一区府県立全生<sup>ぜんせい</sup>病院として創立され、令和3（2021）年9月28日に創立112周年を迎えました。その年年<sup>としどし</sup>の園の歩みを年報という形で未来へしっかりと遺していくことの意義と責任は、今後も決して変わるものではないと考えています。この思いを皆さんと共有できることを心から願っております。



## 施設理念

当園は、入所者一人ひとりが心の安らぎを得て療養できる環境を提供し、生きていることの充実感が満たせるように医療・生活の充実をはかります。

## 基本方針

- ◎ 入所者の目線にたった安心で信頼される医療を提供します。
- ◎ 入所者の権利（知る権利・自己決定権・プライバシー）を尊重します。
- ◎ 快適な生活環境の場を提供します。
- ◎ 職員の教育・研修に努めます。

## 患者（入所者）の権利

- ◎ 人格を尊重した医療を受ける権利
- ◎ 医療に関する十分な説明を受ける権利
- ◎ 個人情報保護の権利
- ◎ 診療情報の提供を受ける権利
- ◎ 検査や治療等の自己決定の権利

# 国立療養所多磨全生園の組織目標

## 【今期（令和3年度）の組織目標】

施設名：国立療養所多磨全生園

	内容	推進する上での課題
1	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【国立療養所多磨全生園の将来のあり方の推進】</b>                      ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等）について入所者等と十分調整を行い、将来構想の案を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者の意見を尊重し、入所者と話し合いを十分に行った上で検討。</li> <li>・地方自治体、地域住民との調整。</li> <li>・必要に応じ、本省と調整。</li> <li>・学芸員の早期確保・配置。</li> </ul>
2	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【職員確保対策の推進】</b>                      入所者へのサービス提供体制の維持・向上を図るために必要となる職員を確保するとともに、離職防止策を推進する。特に看護師は、積極的に募集活動を行い欠員解消を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設全体で各部門の職員確保・離職防止策を実施。</li> <li>・積極的な募集活動実施、就職説明会の参加、学校、周辺医療施設等へ呼びかけ。</li> <li>・必要に応じ、本省と調整。</li> </ul>
3	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【職員の知識・技術の向上の推進】</b>                      入所者のハンセン病後遺症及び高齢化による認知症や手足等の障害に対する医療・看護・介護の充実、職員研修・勉強会の開催、施設内外研修等への積極的な参加等を図る。                      （医療安全管理研修会年2回開催、感染対策研修会年2回、セクハラ・パワハラ研修会年1回開催し、参加率は100%を目標とする）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が参加できる研修計画の企画・立案による実施。</li> <li>・全職員（新規採用者含む）が、ハンセン病に対する正しい理解を深め、医療・看護・介護の充実に繋げるための研修内容の見直し。</li> </ul>
4	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【令和3年度年度予算の適正な執行】</b>                      施設・医療機器設備の年間整備計画に基づき、計画的かつ適正な予算執行を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設全体における施設・設備整備の進捗状況を共有し、効率的・計画的なスケジュール調整を行い、早期執行に努める。</li> <li>・自治会及び本省との事前調整。</li> </ul>
5	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【職員の健康管理の改善】</b>                      定期健康診断後の健康管理医指導等を徹底し、年次休暇取得、超過勤務縮減を促進する職場環境作り、特定保健指導・メンタルヘルス・病気休暇取得者等への積極的な支援（相談、復帰等）を行う。                      （ドック・健康診断受診率100%、1人年次休暇取得率80%、超過勤務時間数の対前年度減）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員の定期健康診断結果の把握、指導体制の確立。</li> <li>・年次休暇取得促進、超過勤務縮減のための組織的点検・分析による各職場長へのフィードバック。</li> </ul>
6	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【看護・介護体制の充実】</b>                      入所者の看護・障害度に応じた体制整備と職員配置に再編成し、看護・介護サービス提供体制を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者の意見を傾注し、入所者の理解を得ながら、個々の看護・障害度に応じた看護を行う体制及び職員配置を行っていく。</li> <li>・再編に向け、看護職員の協力と理解を得る。</li> <li>・必要に応じ、配置職員の確保等について本省と調整。</li> </ul>
7	<p>期限（ 3月まで ） 数値目標（ ）</p> <p><b>【人生サポートの支援】</b>                      人生サポート推進室を中心とした他職種協働による活動体制の確立により、入所者から終末期対応における意向を確認し、記録を刷新する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員・入所者への協力依頼と事前周知方法。</li> <li>・聞き取り者選定、グループ編成。</li> <li>・既存データとの整合性、継続性の尊重。</li> </ul>

## 【職員の能力向上のための取り組み】

	内容
人材育成・組織活性化	<p>入所者のハンセン病後遺症及び高齢化による認知症や手足の障害増加にあわせた医療・看護・介護が実践できるよう、職員研修・勉強会を開催するとともに、施設内外研修への積極的な参加を促進する。(再掲)</p> <p>医療安全管理研修会年2回開催、感染対策研修会年2回開催、セクハラ・パワハラ研修会年1回開催し、参加率は100%を目標とする。(再掲)</p>
実態把握能力	<p>入所者へのサービス提供体制の向上に必要な職員の確保を行うために、各部門毎に職員の欠員理由を分析し、対応策を検討する。(再掲)</p> <p>施設・設備の整備計画に基づき、計画的かつ効率的に予算を執行する。(再掲)</p>
新政策企画・立案能力	<p>ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等：災害時協定含む）について、地域自治体及び入所者等と十分調整を行い、今後の将来構想における案を作成する。(再掲)</p>
政策検証能力	<p>ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等：災害時協定含む）について、地域自治体及び入所者等と十分調整を行い、今後の将来構想における案を策定する。(再掲)</p>
コミュニケーション能力	<p>管理診療会議等における伝達事項（職員周知の必要事項）などを、誰もが理解しやすい簡潔かつ明瞭な表現となっているか自己点検する。また、職場長は部下に対し丁寧に、かつ、わかりやすく直接説明するように心がけ、また、確実に職員に伝わるよう園内ラン等へのアップを迅速に行う。</p>
コスト意識	<p>園内配布物等は原則両面白黒コピーとし、常に全職員が節約に心がける。後発薬品の使用割合については85%を目標として、薬事委員会等で周知し、実現に向け努力する。</p>
業務改善能力	<p>ハンセン病問題解決促進法等に基づき、将来のあり方（地域開放等：災害時協定含む）について、地域自治体及び入所者等と十分調整を行い、今後の将来構想における案を作成する。(再掲)</p> <p>・事務職員の人材育成に向けた研修会を、年数回、定期的に開催し、個人毎のスキルアップを図る。</p>
リスク対応能力	<p>全職員に法令遵守の徹底を働きかけ、問題発生を未然に防止する。仮に、問題が発生した場合は、本省等を含め上部機関に迅速に報告し、対応を協議する。公務員倫理研修会の実施及び事務部門における法令遵守自己点検を行い、取り組みを強化する。</p>

# 目 次

- ・年報発刊によせて（園長 正木 尚彦）
- ・国立療養所多磨全生園組織図
- ・施設理念・基本方針・患者（入所者）の権利
- ・国立療養所多磨全生園の組織目標

I	活動報告	1
	1. 諸会議開催状況	3
	2. 診療部門	4
	3. 看護学校	36
	4. 新型コロナウイルス感染症への対応	37
II	行事・園外からの受入・研修等報告	41
	1. 園主要行事	43
	2. 厚生労働省・法務省等視察状況	44
	3. 看護学生実習・施設見学・研修等施設利用許可状況	45
	4. ボランティア受入状況等	47
	5. 研究活動、研修参加、倫理審査委員会状況	48
	6. 規程の改訂状況	56
III	統計資料	57
	1. 職員定数・現員、永年勤続授賞者等	59
	2. 経理関係	65
	3. 入所者関係	66
	4. 治療棟診療科受診者数	72
	5. 診療統計関係	73
	6. 医療事故分析報告	81
	7. 看護学校関係	82

# I 活動報告





## 1. 諸会議開催状況（令和3年度）

会議名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理診療会議	4月22日	5月27日	6月24日	7月29日		9月30日	10月28日	11月25日	12月23日	1月27日	2月24日	3月24日
園内感染対策委員会	4月22日	5月27日	6月9日	7月29日	8月26日	9月30日	10月28日	11月25日	12月23日	1月27日	2月24日	3月24日
			6月24日									
幹部会議	4月1日	5月11日	6月1日	7月6日		9月7日	10月5日	11月2日	12月7日	1月4日	2月1日	3月1日
	4月6日	5月25日	6月15日	7月20日		9月21日	10月19日	11月16日	12月21日	1月18日	2月15日	3月15日
	4月20日		6月29日					11月30日				3月29日
医療安全管理委員会	4月15日	5月20日	6月17日	7月15日	8月19日	9月16日	10月21日	11月18日	12月16日	1月20日	2月17日	3月17日
薬剤委員会		5月24日		7月26日		9月27日		11月22日		1月24日		3月22日
褥瘡委員会		5月17日	6月14日			9月13日	10月11日	11月8日	12月13日	1月24日	2月14日	3月14日
NST委員会		5月6日	6月3日			9月2日	10月7日	11月4日	12月2日	1月6日		3月3日
献立委員会	4月27日	5月25日	6月22日	7月27日		9月28日	10月26日	11月30日	12月28日	1月25日	2月22日	3月22日
栄養管理委員会	4月27日			7月27日			10月26日			1月25日		
公共調達委員会										1月7日		
臨床検査委員会												3月10日
健康安全管理委員会												3月22日
防災委員会									12月8日	1月19日		
										1月31日		
輸血療法委員会						9月27日						
保育所委員会	4月21日	5月20日					10月21日	11月25日				3月1日
診療情報等管理委員会												
中央材料室運営委員会						9月9日						
医療倫理委員会					8月3日							
倫理審査委員会	迅速審査			迅速審査				迅速審査			迅速審査	迅速審査
看護学校運営会議		5月11日				9月28日		11月16日			2月1日	3月15日
人権擁護委員会		5月17日										
将来構想に係る意見交換会		5月26日						11月24日				
将来構想委員会												3月28日
施設懇談会	4月8日	5月13日	6月10日	7月8日		9月8日	10月14日	11月11日	12月16日	1月20日	2月10日	3月10日

## 2. 診療部門

# 内 科

内科医長 佐藤 一朗

令和3年度の内科では、11月に新たな常勤医師として汐崎医師が新たに加わりました。このため、園長、非常勤内科医も含め6人で入所者の対応ができるようになりました。

COVID-19の流行により、職員の感染もあり、入所者のコロナ感染や疑い症例がありました。昨年度、準備したコロナ対応マニュアルの他に、さらに研究検査科と協力して、迅速に検査を行えるような体制を構築しました。これらの対策により、令和3年度には、当園の入所者同士の感染拡大はありませんでした。

内科の診療は、入所者の病状に合わせて外来診療および入院診療を行っております。

外来は、コロナ禍でも昨年同様に、入所者の年一回以上の健康管理と、一般外来で疾病の早期発見、早期治療を主な役割として診療に当たっています。常勤の内科医および非常勤医が、入所者の状態に合わせた予約診療を行い、必要に応じて各専門分野の医師に紹介を行っています。園内で治療困難な症例は、多摩北部医療センターや、東京病院、埼玉病院、公立昭和病院、複十字病院、新山手病院などと連携して、治療に当たっています。救急対応に関しては、内科の常勤医を中心に対応しております。

入所者の高齢化により、生活習慣病、悪性腫瘍、フレイル等による嚥下性肺炎等の疾病が多かったです。

外来で治療が困難な急性期疾患に対して、第一病棟で治療を行っております。内科入院診療の主な対象患者は、癌、リウマチ膠原病疾患、感染症、呼吸器疾患、血液疾患、糖尿病、脳血管疾患、神経疾患、老年病疾患など、内科系のほぼ全範囲をカバーしています。さらに、入院患者に関しては、他科、特に整形外科、皮膚科の入院患者に対する血糖コントロールや発熱・肺炎などの内科的トラブルに対して、コンサルテーションやバックアップを行っています。

入院中の筋力低下等によりすぐに、居住区へ帰れない場合は、リハビリテーション科と連携して対応しています。

やすらぎ病棟では、精神科と協力して認知症が進んだ入所者の健康維持に努めています。

また、複数の疾患をもち、各病態の調整が必要な方を主治医として診療しています。固形がんの治療や、カテーテル・内視鏡などのインターベンションが必要な場合は、外来と同じく他院の専門診療科に依頼もしくは共同で診療しています。

高齢化が進み、さらなる老人病疾患の増加が見込めることから、早期発見を目指していっそう健診に努力したいと思っています。

# 外 科

外科医長 白井 律郎

外科外来では、以前より手・足の創の予防と治療、熱傷や肛門疾患の治療のほか、外科的救急疾患患者さんへの対応、外科検診などを主たる業務としてきた。同時に、手足の慢性創などで治療を受けていた患者さんが、創の治癒後にセンターなどで予防処置を継続中に新たに問題を生じた場合、再び外科治療を行ったのち改めて生活区域での処置に移行するための診療も行ってきた。またここ数年は、陥入爪の患者さんに対し近年開発された治療法による治療を行ってきたが、令和2年度にはこれを発展させ、希望する入所者の方々に定期的に爪のケアを行い、必要があれば医療へつなげるための「爪外来」を、看護師チームのイニシアティブで行っている。令和3年度には、外科外来において延べ403名の患者さんの診療を行い、また、爪外来では延べ129名の入所者さんのケアを行った。

従来、当科においては、手足創の処置のうち可能なものをセンターなど生活区域へ移行させ、外来受診による患者さんの負担を軽減してきたが、近年では、コロナウイルスに対する感染予想の観点からも、この方針を維持・徹底している。また、生活区域での手足のケアを外科外来と同じレベルで継続する目的で、患者さんの外来受診にあわせて生活区域の看護師にも来訪していただき、手足、爪等のケアに関する知見を共有することで、園内全域でのケアの標準化にむけた努力を行っているところである。

# 整形外科

齊藤 誠人

2021年度の整形外科外来の中心は、これまでと引き続き、患者さんの一般診療と健康管理となっている。一般診療は、整形外科一般と各医師の専門性を生かした診療を行っている。専門性は、脊椎、関節、腫瘍などの分野に分かれており、それぞれの専門性を生かし、時にはお互いに連携をとりながら診療に当たっている。

外来を受診される理由は大きく2つに分けられ、1つ目は非外傷性の疾患であり、2つ目は外傷であった。1つ目の理由で受診される方の主訴としては、頸部痛、腰痛、膝関節痛、肩関節痛などが多く、これらの症状の多くは、変形性頸椎症、変形性腰椎症、変形性膝関節症、変形性肩関節症など加齢に伴うことが原因で生じる変性疾患であった。また、加齢に伴う変性疾患だけではなく、長年の末梢神経障害を起因とした関節の変形の進行や、末梢神経障害による皮膚および軟部組織感染・潰瘍への度重なる治療の結果としての関節変形を呈している患者さんも多く見受けられた。慢性的な変性疾患については、鎮痛剤の内服、外用をベースとしつつ、疼痛の程度によっては必要部位への鎮痛目的の注射を行いながら、外来通院をしていただいている。関節変形が高度でこれらの対応での疼痛コントロールが困難な場合は、術後に十分なリハビリテーションを行えると考えられる患者さんには人工関節置換術の適応を検討することになる。皮膚・軟部組織感染・潰瘍の患者さんには、皮膚科医師に相談、ご助言頂きながら診療に当たっている。

2つ目の外傷での受診は多岐に渡るが、骨折が多く、その中でも脊椎の圧迫骨折と大腿骨近位部骨折は、入院・手術が必要となる骨折であり、患者さんのADLを低下させる可能性が非常に高く、影響の大きい骨折といえる。脊椎圧迫骨折は、椎体の圧壊の進行と隣接椎体の連鎖的な圧迫骨折を防ぐため、治療としての臥床が要求され、体幹コルセット長期間着用することを強いられることになる。大腿骨の近位部骨折は、基本的に手術が必要となるが、近年高齢化も大きな原因ではあるが、様々な合併症を抱える患者さんも多いこともあり、心肺機能が手術に耐えられないと判断された場合、他院にて手術を断れるケースも出てきており、患者さんの疼痛コントロールに苦心するとともに、今後の歩行機能の再獲得をあきらめなければならないというケースが散見された。

いずれのケースでも、高齢化が進んでいる患者さんのADLの低下をどれだけ防ぐことができるかが重要であり、疼痛のために動きたくない、動かさないという状態を減らせるよう、できる限りの疼痛コントロールを行いながら、体力・筋力の低下そして廃用の進行を防ぐことが必要である。外来、入院にかかわらず、リハビリテーションは運動器疾患において非常に重要なパートを占めており、リハビリテーション科医師、OT、PTさん、病棟外来看護師、装具士さんのご協力のもとすでに多くの患者さんへの介入を行って頂いているが、今後もより一層連携を深めていくことを心がけたい。

また、特に骨折予防という観点から、骨粗鬆症への対応が非常に重要な課題となっている。心肺機能の影響で手術ができない場合、強固な固定ができず、除痛に難渋することになる。そのような患者さんを減らすためにも、まずは骨折を予防することが重要となる。当科では年に1-2回、骨密度の測定検査を行っている。骨密度の検査は非侵襲的であり、整形外科を定期的に受診されている患者さんには積極的に声がけして検査を受けて頂いている。これからも引き続き、骨粗鬆症と骨折リスク、そして骨折予防の重要性についての啓発を行っていく予定である。

# 専門医皮膚科

皮膚科医長 山崎 正視

令和3年度の皮膚科外来で多く見られたのは、昨年度と同様で、胼胝、胼胝下潰瘍、外傷、熱傷、白癬、カンジダ性指間びらん症、皮脂欠乏性皮膚炎です。また、帯状疱疹、単純性疱疹、丹毒、蜂窩織炎も数例ありました。入室が適応になった患者は、難治性皮膚潰瘍、蜂窩織炎、足趾の骨髄炎などで、他科で長期に入室している患者に、カンジダ性間擦疹、褥瘡などの合併がありました。

ハンセン病回復者は知覚鈍麻のために外傷・熱傷を繰り返し、2次感染を合併することもあり、難治性皮膚潰瘍に進展することも少なくありません。フィブラストなどを使用しても、肉芽組織はなかなか増殖せずに創傷治癒は遅延します。従って、わずかに増生した肉芽組織を温存するため、膿瘍や壊死組織のデブリドマンを必要最小限にし、できるだけ保存的に根気強く加療することが重要です。

令和3年度のハンセン病国内新規患者は3例で、すべて在日外国人であり、ネパール人2例、インドネシア人1例です。当科では主治医の先生からの依頼があれば、可能な限り当該医療機関に出張し、診察、スミア検査、組織の特殊染色を施行し、PCR検査をハンセン病研究センターに依頼します。令和3年度は名古屋大学から1例（25歳男性、ネパール人、BT型）、群馬大から1例（24歳男性、ネパール人、BT型）の診療依頼がありました。また、前年度から継続して診療している症例は3例あり、東京女子医科大学の1例（37歳女性、ミャンマー人、LL型+ENL）、東京通信病院の1例（53歳女性、フィリピン人、LL型+ENL）、埼玉医大総合医療センターの1例（26歳女性ネパール人、BT型+1型らい反応）がありました。今後も一般医療機関への診療協力を継続します。

令和3年度業績（発表、論文）

1. 三上万理子、石井則久、山崎正視、蒲原 毅、佐々木裕明、立川夏夫、四津里英. 皮膚症状からCOVID-19が疑われた1例、第85回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京. 2021.11.13-14
2. Sugawara-Mikami M, Ishii N, Yamazaki M, Kambara T, Sasaki H, Tachikawa N, Yotsu R: Skin manifestations of suspected COVID-19: complications of the disease or reactivation of latent viral infections? JAAD Case Reports 12:15-17, 2021. DOI: <https://doi.org/10.1016/j.jdc.2021.03.032>

# 眼 科

杏林アイセンター・佼成病院眼科  
非常勤眼科医師 重安 千花

眼科は非常勤体制で診療をしています。国立埼玉病院および杏林大学病院の医師で現在は週に2～3日の診療を行っています。2021年7月現在、隔週月曜日は杏林大学より慶野教授、火曜日は埼玉病院より吉田医師、金曜日（第1、3、5）は重安が担当しています。また火曜日には埼玉病院より視能訓練士にきていただいています。

眼科の受診者はハンセン病の眼後遺症として、兔眼、兔眼性角膜炎に伴う角膜混濁、角膜らい腫による角膜混濁、帯状角膜変性症など、外眼部の障害が多くみられます。また加齢に伴う白内障、ぶどう膜炎に伴う続発白内障もみられます。その他、微細な炎症を伴う慢性虹彩毛様体炎も多くみられます。疾患の詳細は2019年に日本眼科学会雑誌に報告しましたが、低視力の方が多いため視力低下の自覚がしづらく、また角膜知覚の低下が生じているために痛みを感じにくいのも悪化する要因となります。日々の点眼介助の際に、眼の状態に変化がないかどうか他覚的に観察することが重要であると考えます。

将来の視力維持のために白内障手術をご希望される方には多摩北部医療センター、東京病院にご紹介し、加療をしていただいています。ただしここ数年はどこの医療機関もコロナの影響を受けています。当園の患者さんに限ったことではありませんが、手術加療のためご紹介するにも手術制限がかかり、その間に認知症の進行がみられたため手術のタイミングを失った方がおいでになるのも事実です。

昨年、杏林大学の医学部一年生に向けて、ハンセン病の眼疾患について講義をする機会を頂戴しました。本年は昨年の流れを引きつぎ、一部の学生が「ハンセン病」をグループ学習のテーマとして取り上げ、オンライン上でお話をする機会をいただきました。まだ一年生ですので医学的なことはわからないと思いますが、医師を目指す純粋な心を保ち続けていただくきっかけになればと思い、またハンセン病に目を向けてくれたことを嬉しく思っております。

非常勤での勤務であるため、近隣の先生方に緊急時は御対応をいただいております。日頃のお力添えに感謝いたします。微力ながら皆様にお力添えできますよう、引き続き精進して参りたいと存じます。どうぞ引き続きよろしく願いいたします。

# 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科医長 中井 淳仁

平成20年度以降医長1名のみで診療を行っている。専門医資格更新に必要な学会出席のため、年に数回休診とさせていただいている。

入所者数の減少に伴い、1日に当科で診療する患者数は15から20名程度のことが多くなり、ゆるやかな減少傾向が続いている。

診療の内容としては、かなりの部分がハンセン病の後遺症である萎縮性鼻炎に関係した鼻腔の清掃で、残りは、一般の高齢者に見られる難聴・中耳炎・鼻副鼻腔炎・咽喉頭炎・嚥下障害などへの対応である。また、認知症などの患者を対象に定期的な耳垢除去を行っている。

今年度入所者検診は入所者への通知がなされず、行えなかった。

年2回の職員検診では、約30名を対象に聴力検査を行っている。

引き続き各不自由者棟等での誤嚥・窒息対策の講習も行っている。

手術その他の専門的医療が必要な症例や専門家の診断を仰ぎたい症例については、適宜疾患分野に応じた専門家のいる医療機関へ委託診療を行うこととしているが、年に0～1件となっている。



# リハビリテーション科

リハビリテーション科医師 紙本 貴之

2021年度はリハビリテーションの処方、生活指導、義肢・装具の調整、家屋調査などを中心に業務をさせていただいておりました。ハンセン病にともなう末しょう神経障害による感覚障害や運動麻痺などがある中で、筋力低下、関節可動域制限などがあり、さらに重複する内科的疾患や整形外科的な疾患、創などに合わせて適切な理学療法、作業療法、言語聴覚療法を組み合わせるリハビリテーションおよび装具の処方を行いました。徐々に園内居住者の方々の高齢化が進んできているため、リハビリの負荷や頻度を調整しながらも、生活の質を落とさないように支援を行いました。また外来で、年に一回の検診および定期評価として、歩行能力やバランス能力、下肢筋力を評価しておりました。

必要に応じて内科や整形外科から骨折や肺炎、心不全などの急性期疾患に対するリハビリテーションとして、安静度や負荷量の設定しリハビリテーション処方や嚥下機能に合わせた食形態の調整、退室時の能力に合わせた家屋環境調整などを行いました。

食事に関しては、栄養科と協力をして粥ゼリーという形態を新しく作りました。おかゆの栄養素はそのままにして、たとえ固形物が飲み込みにくくなっても、ゼリーのように食べやすい状態になっています。その他様々な補助食品があるので、我々にご相談いただければ様々なご提案ができると思います。

また、コロナウイルスの蔓延により人々の活動量減少が世界中で見られました。イベントなどが行われなくなってしまうため、家の中や部屋にこもってしまう時間がどうしても長くなってしまいます。不活動を少しでも減らすためにリハビリテーションはとても重要な役割を担っていると考えています。また、リハビリテーション治療はどうしても、人が集まり人と人が接しながら治療をする場面が多くなるため、感染リスクが非常に高くなるため危険と判断されてしまい、また不要不急なのではないかという声も上がっていました。しかし、我々も十分に感染対策に配慮し、入所者の皆様に継続して訓練を行っていただけるように心がけておりました。入所者と職員の皆様のご協力もあり、大きなクラスターなどの発生がなくリハビリを続けることができたことはとても良かったと思います。

# 理学療法部門（PT）

定員：定員枠6名

理学療法士長1名（鈴木）、理学療法士5名（崎野、高田、時任、於久、佐々木）

令和2年度はPT 1名欠員だったが、今年度1名が新規採用され、定員を満たし業務を実施した。時短勤務者や介護休暇者はいなかった。

## 1) 理学療法部門における傾向

月報集計より

前年度に比較して理学療法部門の実施件数月平均は982件で前年度より約40件増であった。人員的不足時期もあったが、一昨年からは95件増、昨年から40件の増と推移しており理学療法部門における需要があることを示していると考ええる。個々のリハビリ内容については、個別療法、徒手療法の割合が殆どなり、患者の心理的課題に対するサポートを重視した理学療法の重要性が増している。

年度を通しての傾向としては、全生園自体の入所者数は年々減少に転じているが、理学療法処方 は維持・微増傾向にあった。

今年度より、追加で集計した項目と前年度追加した項目を含め ①カンファレンス件数 ②ベッドサイドPT件数 ③家屋評価件数 について以下報告する。

- ①“カンファレンス件数”PT、OT、STのべ件数を示す。理学療法部門は参加率100%である。今年度月平均2件であった。
- ②“ベッドサイドPT件数”将来的に予想される理学療法部門への需要として、ベッドサイドでのターミナル患者への対応が増えることを予測し、今年度より集計を部門毎とした。月平均129件であった。
- ③“家屋評価・調整件数”は理学療法士への同行依頼がリハビリ科医師からあり、件数=実施人数ではないが（一人の患者に対して複数回の家屋評価がされる場合もある為）月平均7件の依頼があり微増となった。（前年度月平均6件）

患者所属別実施者数の前年度との比較

1病棟（約10件増：↑）、やすらぎ病棟（約50件減：↓）、第1センター（約40件増：↑）、第3西センター（約20件増：↑）、一般舎（約10件減：↓）、園外社会復帰者（7件減：↓）、第二共済（処方なし：変化なし）

リハビリテーション科 定期評価、(PT部門)

リハ医師3名より、計60症例に対して定期評価（評価項目3種類）の処方を頂きFunctional

ReachとTime Up To Go Testを実施した。平成26年（2014年度）からPT部門で毎年行っている業務ではあったが、今年度より年報へ計上する事とした。令和3年度はリハ医師よりPT処方箋が出る形で実施した。開眼片脚立位はリハ医師が診察時に計測することとなった。

## 2) 会議分担

各会議において委員に選出され、かつ1回/月以上あるものは、理学療法士長に限定されたものを含め7つあったが、今年度途中2022.6月より“認知症ケアチーム会”の委員に選出され、計8つの会議の委員となった。今年度追加された“認知症ケアチーム会”は令和2年度書類上、作業療法士が委員に選出されていたようだが参加実績はなく、令和3年度からリハ科医師の指示により理学療法士から1名選出した。8つの会議中6つの会議を理学療法部門で分担した。

管理・診療会議（PT士長）、園内感染対策委員会（PT士長）、医療（二）部会（PT士長）、医療安全推進部会（PT崎野）、褥瘡対策委員会（PT高田）、認知症ケアチーム会（PT於久）、認知症リハビリチーム会（OT室川、大西）、NST委員会（ST柴山）園内情報システム委員会（PO菅野）その他、低頻度・適宜開催会議として医療機器整備委員会（PT士長1回/年）電動車椅子委員会（PT士長：今年度開催実績なし）

## 3) 園内における勉強会講師依頼

一般寮支援室、第1センター、やすらぎ病棟から勉強会の講師依頼があり理学療法部門が対応した。ただし、やすらぎ病棟の勉強会についてはリハ科内における業務の分担も兼ね、作業療法士1名も加えて2名で対応した。

4月1日「リハビリテーション科の紹介」庶務課（PT士長）

8月13日「高齢者の筋力増強運動」一般寮支援室（PT士長）

10月22日「高齢者の転倒予防」第1センター（PT於久）

11月23日「拘縮ケア」やすらぎ病棟（PT高田、OT大西）

（文責：理学療法士長 鈴木 広美）

# 作業療法部門（OT）

定員：作業療法士2名（大西、室川）

欠員1名：2022.3.1～2022.3.31 自己都合により2022年2月28日付で退職（大西）。それに伴い2021.12.2～2022.2.28までの約4カ月間（年次休暇取得のため）、1名体制による業務調整をおこなった。

ハンセン病後遺症や加齢、長期にわたる代償的な生活動作の習慣化等が起因と思われる頸部や肩周辺部の慢性的疼痛の増悪。また、全国的な新型コロナウイルス感染者増加に伴い、当園でも感染対策による行動制限から活動性や認知機能、ADL、IADL能力低下につながった可能性がある入所者の身体心身機能の維持改善を目的に介入した。

集団棒体操は身体認知機能維持改善を目的に、リハビリテーション医師から処方された「やすらぎ病棟3名」、「1センター8名」の計11名に対し、所属の病棟やセンターの各ホールでそれぞれ週2回、20分実施した。12月から1名体制になったことから準備・移動時間短縮のため、実施場所をリハビリ室（水浴室および機能訓練室）に変更。病棟・センターごとに頻度および実施時間、プログラム内容はほぼ変更なくおこなった。

終末期に対する介入はベッドサイドにてリラクゼーションや関節可動域の維持、気分転換を目的に介入した。

認知症対策として認知症対策部会内のひとつ認知症リハビリテーションチームの一員として引き続き参加。科学的エビデンスに基づき、認知症予防を目的とした取り組みとして、運動と認知課題を組み合わせたプログラム「コグニサイズ」を中心に、対象者の身体機能に配慮したプログラムにアレンジし、チーム内でデモンストレーションを実施、意見交換をおこなった。対象者へは新型コロナウイルス感染者の動向により、感染対策の課題から実施できなかった。

今後も身体機能に加え認知機能低下による生活困難者の増加が予測されるため、予防を含めた作業療法的介入が重要と考える。

（文責：作業療法士 室川 由美子）

## 言語聴覚療法部門（ST）

定員：言語聴覚士1名

入所者に対して、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害、認知機能障害、全般性精神機能障害に介入した。

言語聴覚療法実施件数及び単位数は統計資料の通りである。入所者の高齢化に伴い、摂食・嚥下障害や認知症の対象者がさらに増加しており、その重症度も上がってきている。それに伴い、居室またはベッドサイドでのリハビリや、食事に関する相談も増加傾向にある。認知症の重症度が高い方では、新しい事に対して柔軟に対応することや受け入れる事ができず拒否的な言動が増え、その結果リハビリの介入に苦慮するケースもある。また、認知症による嚥下障害も増加傾向にある。いずれの場合でも、重症化する前段階での予防的リハビリでの介入が望ましい。今後もこれらの傾向は続いていくと考えられる。

その他、看護部による亡くなった方のデスカンファレンスの参加依頼が新たに増えた。

・〈園内講義〉（嚥下に関する勉強会） 1件

- ・〈嚙下造影検査〉 4件
- ・〈デスクカンファレンス〉 3件

(文責：言語聴覚士 柴山 聡美)

## 義肢装具部門 (PO)

定員：義肢装具士2名にて義肢装具製作・適合業務を実施

ハンセン病後遺症患者に対し義肢装具の製作・適合・修理のほか、日常生活活動援助のための自助具製作や入所者の家屋改修なども行っている。装具は、後遺症による難治性潰瘍に対する治療の一環として製作することが多く、装具の不適合は潰瘍の悪化に繋がるため、他科と積極的に協力しながら調整や免荷方法の提案、経過観察などを細やかに行った。義肢装具処方を受け対応した実施件数は義肢装具実施件数表の合計の値であるが、その他に微調整や修理を多数行っているため、「調整等」として件数を計上している。患者数の減少に伴い新規件数は減少傾向であるが、患者の超高齢化による身体機能低下に伴った義肢装具の調整等の件数も多く、様々な要望に可能な限り対応した。

その他の活動として他科の勉強会や実習での講義、臨床実習生の受け入れ、ハンセン病資料館への協力を行った。資料館への協力では、資料館にて令和4年3月から8月まで開催の企画展「生活のデザイン」における義肢装具についての情報提供要請があり、技術解説や資料提供などを行った。

### 〈園内講義〉

- ・看護部「Foot Wearに関して」 後藤直生  
(令和3年11月29日)
- ・看護学校の在宅看護論実習において、「義肢装具について」 後藤直生、菅野太洋  
(令和3年8月30日-31日、9月27日-28日)

### 〈臨床実習生受け入れ〉

- ・西武学園医学技術専門学校 義肢装具学科 3学年 … 1名  
(令和2年6月30日～7月29日の期間中、毎週水・木曜日)

(文責：義肢装具士 菅野 太洋)

# 放射線科

診療放射線技師長 佐藤 敬

令和3年度、放射線科は3名体制（常勤：2名、再任用：1名）で業務を行いました。今年度も、通常診療と入所者検診の放射線検査を実施しています。検査の大半を占める一般撮影検査（胸部・腹部・骨等）とX線CT検査件数は、前年とほぼ同等な傾向でした。検査別に過去5年の推移を見ても、入所者の減少や状態、また高齢化などが由来し変動していると見られます。胸部検診は年々減少傾向にあります。診療の依頼目的として、認知症や転倒等が起因する頭部CTや整形領域の一般撮影が割合として多くなって来ています。高齢化に伴い、今後も同様な傾向が継続されると予測されます。また、昨年から行っている骨密度検査は前年度に比較し10%増加しています。フォローアップも含めて今後も安定した件数が見込まれます。今回、透視検査数が多かった要因は1名の患者で複数回の検査を施行したことが理由となります。歯科撮影の減少に関しては、車椅子や立位困難な入所者の状態が影響しており、パノラマ撮影不可能な方が増えて来たことが考えられます。今後は入所者の状態を考慮し、CT撮影で歯科撮影を代用することが望まれてきます。現在、CTデータを用いソフトウェアでの解析処理を、当園の装置で可能であるか検討中です。また、令和元年に医療法施行規則の一部変更で定められた「診療放射線の安全利用のための指針」に基づいた安全研修を開催し関連する職員の方々に受講して頂きました。放射線の正しい認識を共有することで、より良い検査環境が提供出来ることが期待されます。

今後も、より良い医療体制を維持し入所者に安心と健康を提供出来るよう努めて行きます。

# 歯 科

歯科医長 石崎 勤

令和三年度の歯科は継続するコロナ禍を含む社会情勢の下、普遍的で安全な診療を志し継続してきました。入所者の高齢化に伴う全身的な変化と後遺症に伴う障害に配慮しながら、現状で予知しえる口腔トラブルおよび全身への影響も考慮し、診療計画および実施してきました。本年度の年間外来患者数は、1952名とほぼ前年と同様に推移しておりますが、歯科衛生士の居住区訪問での処置件数や診療室での歯科衛生士処置も増加してきております。入所者個々の口腔に全身状態・予後も含めた計画的治療に向き合えるように、専門的口腔清掃処置や訪問での処置の比率を増やすべく人員の確保、機材の準備、診療体制の見直しを計ってきました。しかし、物品・人的資源も不十分で今後も継続・強化が必要と考えております。もっと個人に合わせた治療・専門的口腔管理・生活支援を開始できるようにと考えております。

オーラルフレイル（虚弱）は全身的なフレイルに先行して発現するとされています。そこでオーラルフレイルのみならず重複障害に対しては、変化が出る前または早期から将来予想を含めた歯科のアプローチにより食事・会話・嚥下等の問題予防に繋がると一般的に考えられております。また、それらの早期からの機能維持が全身的フレイルの予防につながります。当園の入所者の状態を考慮すると、時間的余裕は少ないと感じております。食事を楽しむことや会話をすることが、人たる所以の大きな要素で有り歯科はその一端を担う事を心に留めおく診療を目指し入所者様のQOLの維持・向上につながるように、歯科は次年度からも診療にあたって行きます。

# 薬 剤 科

薬剤科長 山崎 英明

## 薬剤科の理念

入所者の方々の薬物療法が安全で効果的に行われるよう他部門と連携し、医薬品及び情報を提供します。

## 薬剤科の基本方針

1. 園内の方々との信頼関係向上
2. 薬の正確で安全な調剤を心がける
3. 薬品情報は正確で迅速な提供
4. 薬品の適正在庫による健全な経営

## 薬剤科の業務

薬剤科の業務は調剤、注射、医薬品管理、医薬品情報など薬剤師4名と薬剤助手1名で日々作業しています。

2020年7月より入所者すべての方に「お薬手帳」を配布し、処方毎にシールを発行し手帳に貼付しています。手帳を導入することで全ての診療科の処方が時系列で容易に確認することが可能となり、さらに最初のページには個人ごとの処方禁忌薬が貼付してあり、委託先への処方情報共有にも役立てることが出来ます。

調剤では処方せんの記載事項を確認し、薬品名、規格、用法用量、相互作用、禁忌薬など内容確認（処方監査）、薬袋の記載事項、服用方法確認の後、調剤を実施しています。

注射薬においても処方監査の後、払い出し数量、施用歴の把握など適正使用を前提とした管理を心掛けています。

医薬品管理では使用の際、安全かつ有効に管理保管し、購入、在庫、供給の適正化をはかり経済性を重視しています。後発医薬品使用促進では数量割合で85%を目指し、本年度は後発医薬品で88.9%を達成しました。

医薬品情報では薬剤委員会資料、薬剤科ニュースなど情報の収集、加工、整理し、医療関係者へ伝達。入所者さんに対してもお薬説明書など医薬品に関する情報を提供いたします。

その他、医療安全管理室、ICT感染防止対策チームなどに参画し、研修会、勉強会で適切な薬物療法、医療事故防止に努めています。



# 研究検査科

臨床検査技師長 渡邊 孝浩

## 令和3年度業務改善報告

### 1. 採血室の移動

【目的】採血と心電図検査を同じ場所で行う事による患者の移動負担軽減

【実施日】2021年4月

【内容】今までの採血室を脳波検査専用として採血ブースを心電図室に移動。感染対策のためアクリル板を設置した。

### 2. 園内往診PCR検査チームの活動継続

【目的】新型コロナウイルス鼻咽頭検体採取を円滑かつ迅速に実施するため

【実施日】2020年7月より継続中

【内容】往診チーム専任医師・看護師・検査技師で入所者への検査説明から検体採取、検査まで円滑に実施可能となった。

### 3. 新型コロナウイルス鼻咽頭検体採取室の運用

【目的】職員を対象とした新型コロナウイルス鼻咽頭検体採取専用の部屋で実施する事により入所者および職員への感染リスク軽減

【実施日】2021年8月

【内容】治療棟脳波検査室を検体採取室、超音波検査室を待機室として、ゾーニングを行った。

### 4. SARS-CoV-2抗原定性検査の園内導入

【目的】新型コロナウイルス検査の迅速化

【実施日】2021年8月から11月間

【内容】迅速抗原キットを用いて園内でのSARS-CoV-2抗原定性検査を実施した。

### 5. SARS-CoV-2抗原定量検査の園内導入

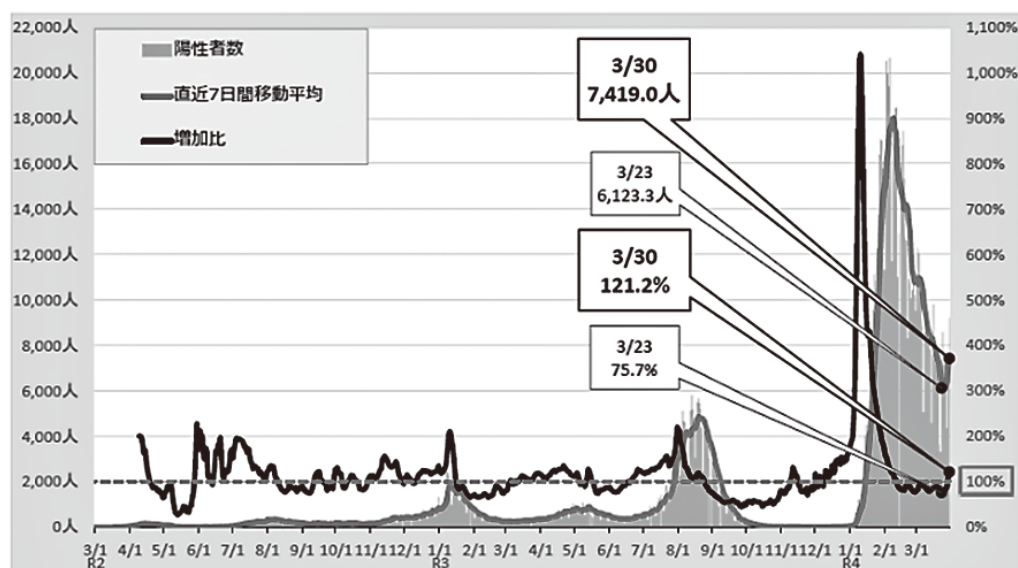
【目的】新型コロナウイルス検査の迅速化

【実施日】2021年12月

【内容】新型コロナの第5波に対応するため、2022年3月の生化学・免疫検査自動分析装置（VITROS XT7600）本格稼働より先行してSARS-CoV-2抗原定量検査を実施した。

### 令和3年度 SARS-CoV-2検査件数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
抗原定性	0	0	0	0	6	2	2	1	0	0	0	0	11
抗原定量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	4	10	35
PCR	3	1	0	5	8	2	0	6	8	7	4	5	49



(R4.3.31.東京都モニタリング会議資料より引用)

#### 6. 採血管の集約および採血量の削減

【目的】 HbA1c検査を血算採血管に集約、採血量の削減および患者負担の軽減

【実施日】 2022年2月7日

【内容】 血算検査とHbA1c検査を、EDTA-2K採血管のみで検査可能とした。

#### 7. 生化学・免疫検査自動分析装置（VITROS XT7600）の本格稼働

【目的】 VITROSの導入によって検査の省力化を図る

【実施日】 2022年3月1日

【内容】 生化学・免疫・HbA1c検査などをVITROS 1台に集約して、分析装置にかかるメンテナンスや試薬コストを軽減した。

# 栄養管理室

栄養管理室長 森山 裕

栄養管理室では、入所者のみなさま個々に適した、おいしく、安全な食事を提供することを基本姿勢として業務を行っています。

令和3年度は、栄養士3名、調理師12名、事務（期間職員）1名と委託職員16名でスタートしました。（調理師人員不足のため、朝食については全面業務委託となっています。）

入所者食糧費予算は1人1日あたり1,760円、行事食605円×23回分でした。

おいしく楽しめる食事提供の取り組みとして前年度に引き続き、新メニューの開発を行いました。入所者の皆様からのご意見やアンケート調査結果を基に、より喜ばれる食事作りに取り組みました。また、延期となっていた東京オリンピックが開催され、それに合わせた行事食も提供しています。

その他、食事摂取量の低下や低栄養状態が危ぶまれる方への対応として、NST（栄養サポートチーム）活動での栄養スクリーニング強化に取り組み、入室された方以外でも体重変化や生化学検査値に基づく早期栄養サポートが出来る体制を作りました。

## 主な行事食

4月	園内たけのご掘り 観桜会	たけのご御飯 花見弁当 ねりきり 甘酒	11月	文化の日 新嘗祭	デザート フルーツ盛り合わせ
5月	子供の日 新茶味見会	柏餅 新茶 水ようかん	12月	冬至 クリスマス 大晦日	南瓜いとこ煮 ローストチキン ケーキ 年越しそば
7月	七夕 お盆 聖火リレー オリンピック開会式 土用の丑	水ようかん おはぎ お弁当 赤飯・弁当・和菓子 鰻蒲焼き	1月	正月料理 鏡開き	おせち料理(1日~3日) 正月用お茶 おしるこ
8月	お盆 超早場米 パラリンピック開会式	おはぎ 九州産超早場米 紅白饅頭	2月	節分 バレンタイン	福豆 チョコケーキ
9月	敬老の日 お彼岸 十五夜 開園記念日	ぶどう おはぎ お月見和菓子 折り詰め弁当	3月	ひなまつり お彼岸	寿司 ねりきり おはぎ 甘酒

# 第1病棟

看護師長：菅谷 恵美

## 1. 病棟の特色

### 1) 病棟

内科・外科病棟として急性期の役割を果たし、緊急の入室に対応している。高齢化に伴いハンセン病による重複障害や認知症、他の合併症などから、身体の不自由度が増しているため、多職種と連携しながら入退室の調整を行っている。また、高齢化に伴い終末期の過ごし方を居住区と共に検討し、患者の心に寄り添い、その人らしく、安寧を保ちながら、より良い時間を過ごし最期を迎えることができるよう援助を行っている。

その他、園外から再入園を希望する患者の受け入れも行なっている。

### 2) 透析室・中央材料室

透析の技術的対応のみでなく、日常生活や食事の管理、気分転換など、精神的なケアにも取り組んでいる。シャント増設やシャントトラブルは、外部病院でフォローしている。中央材料室では、中央管理に切り替えるなど、無駄のない適切な使用に取り組んでいる。

## 2. 病棟目標

1. 入退室の円滑化を図る
2. 多職種カンファレンスの推進
3. 部署間の連携と協働の強化
4. ワークライフバランスの推進
5. 5 S活動による物品の最適化を図る

## 3. 看護・介護体制

### 1) 職員の配置状況

	配置数(定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員									
		定員内	(再掲)	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外					
			再任用			介護長	副介護長	左記以外	(再掲)	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間	非常勤	
看護師長	1	1													
副看護師長	1	1													
看護師・准看護師(上記以外)	24	24													
看護助手・介護員	3						3	1							

2) 看護・介護方式

3) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	2名
日勤	8:30~17:15	12名	日勤	8:30~17:15	1名
準夜	16:30~1:00	2名	遅出	9:00~17:45	0名
深夜	0:30~9:00	3名	遅出	10:00~18:30	0名
二交代	16:00~9:15	1名	深夜		名
遅出	12:30~21:00	0名	当直		名

4. 患者の状況

1) 入院患者 (前年度)

1日平均患者数	10.5名
平均在院日数	154日
病床利用率	34.9%
平均年齢	87歳

4) 看護度

	I	II	III	IV
A	0	0	0	0
B	0	3	0	2
C	0	2	2	0

2) 疾患別構成 (前年度)

整形外科疾患(骨折他)	9名
その他(生活困難など)	35名
呼吸器系疾患	8名
皮膚疾患	4名
消化器系疾患・食思不振	13名
循環器系疾患	7名
脳神経疾患	9名
精神科疾患	1名

5) 不自由度

特重	3
重	1
中	2
軽	1
一般	2

3) 手術・人工透析等件数 (前年度)

手術	0件
人工透析	1件

6) ADL状況

	全介助	一部介助	自立
入浴	4	4	1
食事	0	7	2
排泄	2	5	2
移動	3	3	3

# やすらぎ病棟

看護師長：松岡 千恵美

## 1. 病棟の特色

後期高齢者や認知症、精神的障害等のある精神科関係の病棟である。平均年齢92歳。入所者は長年住み慣れた一般寮、センターでの生活が困難となり生活全般の介助を要する。日常ケアでは、ADLの低下予防、寝たきりにしないことをモットーに残存機能維持に留意している。その人らしく生きるサポートとして、病棟レクリエーションを充実させること、心の安らぎとして信仰している宗教への参加、舎籍のあるセンターで短時間であっても過ごす時間を提供する等、日々の生活の中にやすらぎと楽しみを得られるよう援助している。

急性期病棟の後方病棟として点滴、酸素吸入、吸引など生活を維持するための医療処置を必要とするまたは、その可能性の高い患者を受け入れ、ケアをしている。

## 2. 病棟目標

- 1) 入所者のライフサポート体制の構築
- 2) 根拠に基づいた看護・介護を実践する人材の育成
- 3) 働く充実感が得られる、魅力ある職場作り

## 3. 看護・介護体制

### 1) 職員の配置状況

	配置数(定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員							
		定員内	(再掲)	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外			
			再任用			介護長	副介護長	左記以外	(再掲) 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間
看護師長	1	1				/							
副看護師長	1	1											
看護師・准看護師 (上記以外)	27	27		2									
看護助手・介護員	6						6		1	3			1

### 2) 看護・介護方式

### 3) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	4名
日勤	8:30~17:15	14名	日勤	8:30~17:15	0名
準夜	16:30~1:00	0名	遅出	9:00~17:45	3名
深夜	0:30~9:00	1名	遅出	10:00~18:30	0名
二交代	16:00~9:15	5名	深夜		名
遅出	12:30~21:00	1名	当直		名

### 4. 患者の状況

#### 1) 入院患者 (前年度)

1日平均患者数	17.4名
平均在院日数	2116日
病床利用率	38.1%
平均年齢	91.6歳

#### 2) 疾患別構成 (前年度)

アルツハイマー型認知症	6名
血管性型認知症	3名
その他の認知症	6名
精神発達遅滞	1名

#### 3) 手術・人工透析等件数 (前年度)

手術	0件
人工透析	0件

#### 4) 看護度

	I	II	III	IV
A	0	0	0	0
B	9	6	1	0
C	0	0	0	0

#### 5) 不自由度

特重	15
重	0
中	1
軽	0
一般	0

#### 6) ADL状況

	全介助	一部介助	自立
入浴	16	0	0
食事	13	3	0
排泄	15	1	0
移動	15	1	0

# 第1センター

看護師長：田崎 明子

## 1. 不自由者棟の特色

### 1) 入所者の特徴

ハンセン病後遺症と高齢による重複障害及び合併症を持った不自由度の高い夫婦と、独身者を対象とした生活の場である。平均年齢は、88.2歳であり、歩行困難者や車椅子利用者は、入居者の約80%を占め、視力障害や聴力低下・認知症も併発し、介助を必要としている。

### 2) 看護・介護の特徴

入居者が、安全に過ごすことができ、その人らしく生活するために、看護・介護の協力で生活・健康に関わる援助を行っている。また、入居者のADLの低下に対応できるよう日常生活援助や環境整備に努めている。センター夜勤看護師が、24時間入居者の健康管理や体調変化に対応できるよう管理している。

## 2. 第1センター目標

- 1) 看護・介護が協力し、24時間入居者の健康を管理し、体調変化に対応できる
- 2) センター内の居室・敷地内の環境整備し、転倒予防に努める
- 3) 職員全体で入所者の情報を共有し、個別性のある日常生活援助を行うことができる

## 3. 看護・介護体制

### 1) 職員の配置状況

	配置数 (定員内)	看護師・准看護師			看護助手・介護員								
		定員内	(再掲) 再任用	再任用 短時間	非常勤	定員内				定員外			
						介護長	副介護長	左記以外	(再掲) 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用 短時間
看護師長	1	1											
副看護師長	1	1											
看護師・准看護師 (上記以外)	23	23											
看護助手・介護員	30				3	5	22	3		6			7

### 2) 看護・介護方式

看護師：13寮（3名）14寮（3名）15寮（4名）16寮（4名）17寮（3名）寮ごとの受け持ち制及び一部機能別  
 介護長：13.14（1名）、15寮（1名）、16.17寮（1名） 1年交替  
 副介護長：13.14.15.16.17寮（各1名） 6ヶ月交替  
 介護員：各寮 6ヶ月ごと交替



### 3) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	10名
日勤	8:30~17:15	13名	早出	7:30~16:15	0名
準夜	16:30~1:00	2名	早出	8:00~16:45	0名
深夜	0:30~9:00	3名	日勤	8:30~17:15	9名
二交代	16:00~9:15	0名	遅出	9:15~18:00	3名
遅出	12:30~21:00	0名	遅出	12:30~21:00	0名

## 4. 入所者の状況

### 1) 入居者の状況 (前年度)

在籍者数	37名
現在数	33名
居室利用率	55.0%
平均年齢	89.9歳

### 3) ADL状況

	全介助	一部介助	自立
入浴	5	25	5
食事	4	16	15
排泄	8	17	10
移動	6	24	5

### 2) 不自由度

特重	9
重	11
中	6
軽	3
一般	6

### 4) 身体状況

全盲	2名
弱視	3名
難聴	1名
片義足	2名
両手指欠損	2名
片手指欠損	2名
認知症	10名

# 第3西センター

看護師長：原 祐二

## 1. 不自由者棟の特色

### 1) 入所者の特徴

ハンセン病の後遺症に加えて、加齢によって生じた重複障害を抱える入所者の療養生活の場である。

平均年齢は87.6歳。ADLや認知機能が低下し、歩行・入浴介助などの日常生活の支援を受けながら療養生活を過ごしている。

### 2) 看護・介護の特徴

看護師介護員が24時間常時滞在し、ハンセン病の後遺症や加齢によって生じた重複障害を抱える入所者が健康で安全安楽に過ごせるよう関わっている。入所者の習慣や文化を大切にし、個人を尊重すると共に、心の安らぎを得て生活できる環境作りを心がけている。誤嚥防止の嚥下体操や認知症予防対策、引きこもり防止のためのレクリエーションを行い、入所者同士の交流を図っている。また、第3西センターで看取りを希望される方への体制作りを行い、最期までその人らしく過ごして頂くよう看護師介護員が連携し対応している。

## 2. 第3西センター目標

- 1) 安全・安楽な療養生活の充実
- 2) 第3西センターでの看取りを希望される方への体制作り
- 3) ワークライフバランスを考慮した働きやすい職場環境作り

## 3. 看護・介護体制

### 1) 職員の配置状況

	配置数(定員内)	看護師・准看護師				看護助手・介護員								
		定員内	(再掲) 再任用	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外				
						介護長	副介護長	左記以外	(再掲) 再任用	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間	非常勤
看護師長	1	1												
副看護師長	2	2												
看護師・准看護師 (上記以外)	21	20												
看護助手・介護員	27					2	3	22	2		4			2

### 2) 看護・介護方式

チームナーシング・継続受け持ち制・一部機能別

### 3) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	11名
日勤	8:30~17:15	12名	日勤	8:30~17:15	6名
準夜	16:30~1:00	2名	遅出	9:15~18:00	7名
深夜	0:30~9:00	3名	遅出	10:30~19:00	1名
二交代	16:00~9:15	0名	深夜		名
遅出	12:30~21:00	0名	当直		名

## 4. 入所者の状況

### 1) 入居者の状況 (前年度)

在籍者数	27名
現在数	25名
居室利用率	59.5%
平均年齢	87.6歳

### 3) ADL状況

2022年4月1日現在

	全介助	一部介助	自立
入浴	10	4	11
食事	4	5	16
排泄	2	5	18
移動	2	14	9

### 2) 不自由度

2022年4月1日現在

特重	7
重	8
中	3
軽	2
一般	5

### 4) 身体状況

全盲	2名
弱視	9名
難聴	8名
片義足	2名
両手指欠損	1名
片手指欠損	7名
認知症	10名

# 治療棟

看護師長：高倉 千明

## 1. 治療棟の特色

診療科は、内科・精神科・神経内科・皮膚科・外科・整形外科・脳神経外科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科・泌尿器科・婦人科・乳腺科・リハビリテーション科の14診療科と内視鏡室である。

入所者の高齢化に伴い、生活習慣病や認知機能の低下、ADLの低下等によって、種々多様な症状が出現し、それらの治療を受けている。

看護としては、入所者の訴えを傾聴し、居住区担当者との情報交換を密にし、細やかな観察・援助を心がけている。

専門医療機関への委託診療も増加しており、各診療科がその窓口になっている。また、園外患者からのハンセンに関する電話相談を受け、医師と連携して対応に当たっている。

## 2. 治療棟目標

- 1) 入所者の安全・安心な療養環境を提供する
- 2) 専門性の高い心豊かな職業人としての人材育成
- 3) 働きやすい職場作り
- 4) 安定的な園の運営と地域への啓発活動

## 3. 看護・介護体制

### 1) 職員の配置状況

	配置数(定員内)	看護師・准看護師			看護助手・介護員								
		定員内	(再掲)	再任用短時間	非常勤	定員内			定員外				
			再任用			介護長	副介護長	左記以外	(再掲)	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間
看護師長	1	1											
副看護師長	1	1											
看護師・准看護師(上記以外)	15	15											
看護助手・介護員	2						2			1			1

## 2) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	0名
日勤	8:30~17:15	19名	日勤	8:30~17:15	4名
遅出	12:30~21:00	0名	遅出	9:00~17:45	0名
準夜	16:30~1:00	1名	遅出	10:00~18:30	0名
深夜	0:30~9:00	1名	深夜		名
二交代	16:00~9:15	0名	当直		名

※ 1 治療棟、2・3 治療棟 2 部署で準夜及び深夜を担当している

## 4. 患者（入所者）の状況

### 1) 診療科別受診者数（前年度）

年間延べ人数	内科	精神科	皮膚科	外科	整形外科	眼科	耳鼻科	歯科	泌尿器科
月平均	150.0	49.5	282.5	33	125.3	71.4	329	17.5	72.5

年間延べ人数	神経内科	婦人科	乳腺科	リハビリテーション科	透析	リウマチ
月平均	1.58	0	0	115.6	0	1.6

### 2) 検査状況と手術件数（前年度）

	超音波エコー	上部内視鏡	下部内視鏡	気管支鏡	膀胱鏡	CT	バイオプシー	手術
年間延べ人数	125	0	0	0	0	102	8	0
月平均	11.4	0	0	0	0	9.2	0.7	0

## 5. 看護師・看護助手（看護部所属）が委託診療を受ける入所者へ付き添った件数（前年度）

	入院	外来	退院	面会 等
看護師が付き添った延べ件数	21	202	20	46
看護助手が付き添った延べ件数	0	23	0	0
合計	21	225	20	46

# 一般寮支援室（第1治療棟）

看護師長：富 さなえ

## 1. 治療棟の特色

### 1) 人生サポート推進室

入所者の高齢化が進む中、重複障害を持ちながらも一人ひとりがその人らしい人生を送ることができるよう療養生活をサポートするために、園全体で計画的に取り組む為の調整役として、機能を果たす。

### 2) 一般寮支援室

一般寮入所者の健康管理、生活支援を中心とした活動を行っている。毎週居室を訪問し、感染対策の啓蒙活動、体調不良時の外来受診の付き添い、転倒防止や火災の危険に対する環境調整を行っている。

## 2. 治療棟目標

- 1) 入所者のライフサポート体制の構築と実践
- 2) 根拠に基づいた看護・介護を実践する人材の育成
- 3) 働きやすく、個々の意見が反映される職場づくり
- 4) 無駄のない適切な物品の使用

## 3. 看護・介護体制

### 1) 職員の配置状況

	配置数(定員内)	看護師・准看護師			看護助手・介護員									
		定員内	(再掲)	再任用短時間	非常勤	定員内				定員外				
			再任用			介護長	副介護長	左記以外	(再掲)	賃金	期間業務	雇用継続	再任用短時間	非常勤
看護師長	1	1												
副看護師長	1	1												
看護師・准看護師(上記以外)	6	6												
看護助手・介護員	4						4							

## 2) 勤務体制

看護師・准看護師			看護助手(介護員)		
早出	7:00~15:30	0名	早出	7:00~15:30	0名
日勤	8:30~17:15	7名	日勤	8:30~17:15	4名
遅出	12:30~21:00	0名	遅出	9:00~17:45	0名
準夜	16:30~1:00	1名	遅出	10:00~18:30	0名
深夜	0:30~9:00	1名	深夜		名
二交代	16:00~9:15	0名	当直		名

※ 1 治療棟、2・3 治療棟 2 部署で準夜及び深夜を担当している

## 4. 患者（入所者）の状況

### 1) 訪問看護件数（一般舎の入所者の所へ治療棟看護師が訪問した回数）（前年度）

年間延べ人数	6303
月平均	57.3
平日平均数	28

# 教育担当

看護師長：田澤 理恵

## 1. 教育実施状況

### ◇施設内教育委員会（前年度）

#### （1）目的

- ・国立療養所多磨全生園及び看護部の理念と方針に基づいて、組織の一員としての自覚を高め行動できる人材を育成する。
- ・ハンセン病療養所で生活する入所者の歴史が理解でき、人権を尊重し、社会に向けて啓発できる人材を育成する。
- ・ハンセン病療養所の職員として、専門知識・技術を習得し、看護・介護が実践できる人材を育成する。
- ・専門職業人として、自己研鑽できる人材を育成する。

#### （2）目標

- ・ハンセン病療養所の看護職員としての役割と責任を自覚して倫理観をもった行動できる能力を養う。
- ・入所者の歴史を理解し、人権を尊重した看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・ハンセン病及びその後遺症が理解でき、適切な看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・高齢化している入所者に対応するため、老年の特徴を理解し、看護・介護ができる能力を養う。
- ・入所者が生きていることの充実感を満たせるようにQOLの向上をはかる能力を養う。
- ・入所者、家族（保護者）、医療メンバーとの望ましいコミュニケーションを図るための能力を養う。
- ・医療やハンセン病療養所の動向に目を向け、今日的な専門知識・技術を習得し、看護・介護が提供できる能力を養う。
- ・臨床看護研究や研修を通じ、ハンセン病看護の専門性及び看護・介護の質的向上を図る。

#### （3）内容

研修名	目標	対象者	人員	実施日
新採用者 オリエンテーション	国立療養所多磨全生園の一員としての自覚を持ち 役割と責任を認識する	新採用者 中途採用者 異動者	20名	2021年4月1日 ～5日
移動・移乗の介助	移動・移乗介助に必要な知識・技術を習得する	看護師 介護員	4名	2021年5月14日
メンバーシップ	看護の役割と介護の役割を再確認し、協働の意味 について考える	看護師	7名	2021年5月17日
リーダーシップ	主体的にチームの一員としての役割を遂行する	看護師	7名	2021年5月19日



研修名	目標	対象者	人員	実施日
後輩育成③	実習目標に沿った指導ができる	看護師	6名	2021年5月21日
後輩育成②	新人看護師の指導ができる	看護師	7名	2021年5月25日
薬剤について	安全な与薬技術を身につける必要性を知る	看護師	2名	2021年5月31日
看護技術 (採血)	安全な採血を実施するための知識・技術・判断について習得する	看護師	2名	2021年6月11日
看護過程 (事例検討)	自己の看護実践の振り返りができる	看護師	6名	2021年6月15日 2021年10月15日 2021年11月12日
医療安全	安全を守る必要性と基本的な考えがわかる	介護員	2名	2021年6月16日
2ヶ月の振り返り	当園の看護師の役割と責任を知る	看護師	2名	2021年6月22日
メンバーシップ	メンバーシップについて理解する	介護員	5名	2021年6月25日
リーダーシップ (ラダーⅢ)	主体的にチームの一員としての役割を遂行する	介護員	7名	2021年6月28日 2021年10月29日 2022年1月21日
リーダーシップ (ラダーⅣ)	組織におけるそれぞれの役割とリーダーシップを理解し、自部署の問題点を解決する手法を学ぶ	副介護長	6名	2021年6月30日 2021年12月17日
食生活支援	食生活の基本を知り、支援の在り方について考える	看護師 介護員	3名	2021年7月9日
後輩育成	新人介護職員の不安を取り除き、職場にスムーズに適應するための支援を理解する	介護員	5名	2021年7月12日
意思決定支援	入所者の意思決定支援に関して主体的に行動できる	看護師	6名	2021年7月14日 2021年11月22日 2022年1月14日
倫理③ (ラダーⅢ)	倫理に基づいた介護を提供できる	介護員	7名	2021年7月15日
介護記録	介護ケアを記録できる	介護員	2名	2021年7月19日
看護過程 (ケーススタディ)	患者の個別性を尊重し、看護事例を展開する	看護師	5名	2021年7月20日 2021年10月19日 2021年12月21日
看護過程 (情報収集)	患者の情報収集とアセスメントができる	看護師	2名	2021年7月26日
介護管理	部署に必要な介護管理を理解する	副介護長	6名	2021年7月27日
フィジカル アセスメント②	入所者の状態をアセスメントし報告できる	看護師	6名	2021年7月30日
倫理② (ラダーⅡ)	看護倫理の基本を知り、情報を整理して自己の倫理的問題を明確にすることで、対策の糸口を見いだす	看護師	6名	2021年9月8日
倫理③ (ラダーⅢ)	倫理的問題に気づき、他者に問題提起できる	看護師	7名	2021年9月14日
後輩育成 (ラダーⅢ)	チームの中心となり指導ができる	介護員	7名	2021年9月17日
倫理② (ラダーⅡ)	自己の倫理的課題を明確にする	介護員	5名	2021年9月22日
理想の介護員像	ハンセン病療養所に勤務する介護員の理想像を表現する	副介護長	6名	2021年9月24日
フィジカル アセスメント①	入所者に必要な観察・測定ができる	看護師	2名	2021年9月28日

研修名	目標	対象者	人員	実施日
倫理① (ラダーⅠ)	看護倫理についてメンバーと共に考え理解を深める	看護師	2名	2021年10月8日
倫理① (ラダーⅠ)	介護倫理についてメンバーと共に考え理解を深める	介護員	2名	2021年10月22日
看護管理	部署の管理に必要な知識を理解する	看護師	6名	2021年10月25日
ファシリテーター	現場でファシリテーターとして役割を理解し発揮できる	副介護長	4名	2021年10月26日
医療安全 KYT	危険予知の手法を用いて危険予知ができる	介護員	5名	2021年11月8日
輸液法	安全に注射技術を実施するための知識・技術・判断を習得する	看護師	2名	2021年11月9日
認知症介護	認知症高齢者の介護の基本を学ぶ	介護員	2名	2021年11月26日
1年の振り返り (ラダーⅠ)	自己の看護を振り返り、看護師としての成長を自覚する	看護師	2名	2022年1月25日
1年の振り返り (ラダーⅡ)	日々の看護実践を振り返り、自己の成長に気づくとともに、次年度の課題を明確にする	看護師	5名	2022年1月26日
後輩育成①	プリセプターの役割を理解し、新人看護師をうけいれる準備ができる	看護師	3名	2022年3月11日
マナー・ コミュニケーション	当園の職員として施設理念に則った行動がとれる	看護師 介護員	24名	2021年5月28日
文章の書き方	自分の考えを簡潔にまとめるために必要な知識・技術を習得できる	介護員	12名	2021年7月21日
急変時の看護 BLS	急変時にチームで協力して蘇生を行うことができる	看護師	6名	2021年10月6日
終末期ケア	終末期のケアに必要な知識を習得し入所者の人生を終える時期に必要なとされるケアを知る	看護師 介護員	42名	2021年11月19日
アンガー マネージメント	アンガーマネージメントについて理解し、実践できる	看護師 介護員	21名	2022年1月12日
精油を用いた癒しの フットケア	ハンセン病療養所の看護師としてフットマッサージに関する必要な知識・技術を習得する	看護師	12名	2021年6月29日
入所者が語る歴史	入所者にインタビューを行い、内容をまとめ発表することで、自部署のスタッフが入所者の全体像を把握でき、看護・介護過程につなげることができる	看護師 介護員	17名	2021年9月10日 ～10月31日
園内認定 創傷ケア看護師 養成研修	ハンセン病後遺症における屈曲指の胼胝ケア、胼胝下潰瘍、等、専門的知識・技術を用いて質の高い看護を実践できる能力、及び他の看護師の指導・相談を行なうことができる	看護師	7名	2021年11月29日 ～11月30日

### 3. 看護学校

教育主事 押尾 知子

#### I. 令和3年度看護学校目標

##### 1. 質の高い教育実践

- 1) 看護師国家試験100%合格、就職率100%を実現する。
- 2) 卒業時技術到達度表の活用を定着させる。
- 3) 研究授業や研修等への参加を通し、教官個々のスキルアップを図る。
- 4) 研究に取り組み研究成果を学会等で発表する。
- 5) 学生による授業評価の活用を促進する。

##### 2. 学習環境の整備

- 1) カウンセラーによる学生相談室の開室を目指す。
- 2) 年間時間割の作成に向けて準備を進める。
- 3) 実習中の図書の利用方法の改善を図る。

##### 3. 危機管理

- 1) 看護学校災害対応マニュアルをブラッシュアップする。
- 2) ハラスメント対応について自己研鑽に努める。
- 3) 校舎のセキュリティを強化する。

##### 4. 健全な学校経営

- 1) 入学試験の受験人数を増やし、質の高い学生を確保する。
- 2) 働きやすい職場をつくる。

#### II. 教育計画（2021年4月～2022年3月）

月 日	内 容
4月5日	始業式
4月7日	入学式 第54回生 17名 入学
4月20・27日	健康診断
4月28日	防災訓練
7月2日	学生自治会 七夕（展示）
7月22日 8月22日	学校説明会
10月6日	自己推薦入学試験
11月2日	楓祭 一般公開中止 入所者へダンス披露
12月2日	一般入学試験
12月13日	特別講演「ハンセン病回復者の方々がこれからの看護を担う学生に期待すること」 講師：全国ハンセン病療養所入所者協議会
2月13日	第111回看護師国家試験
3月2日	第53回卒業式 第53回生 20名 卒業
3月14日	終業式

## 4. 新型コロナウイルス感染症への対応

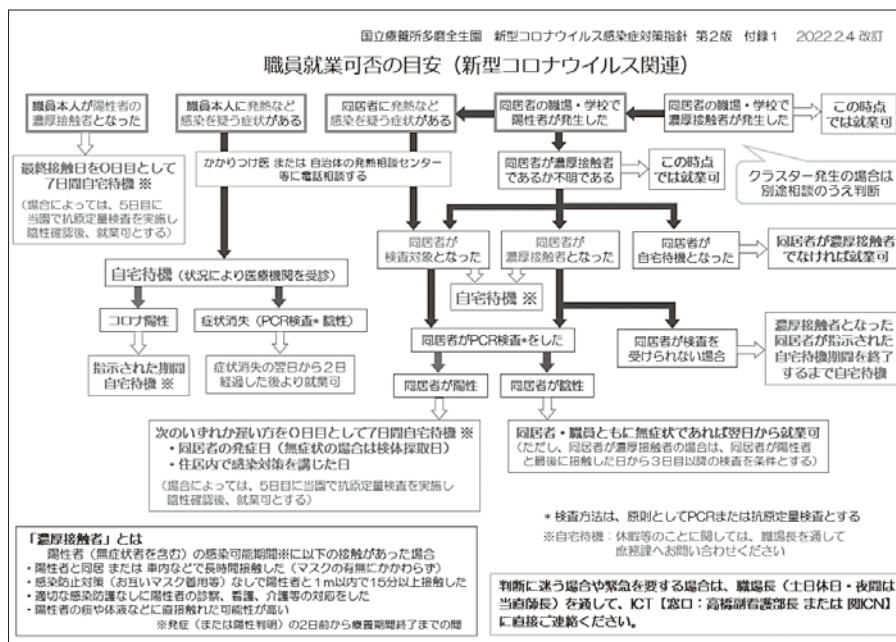
感染管理認定看護師 関 由貴子

### 1. 東京都の感染状況を踏まえた園内対応の概要

期間	当園の対応			東京都の状況	
	入所者同士	面会 園外からの面会	来園者(施設利用者・ 宗教関係者等)		レクリエーション
2021年 4/5~4/24	互いに マスク着用	緊急の場合を除き原則として不可	園内立入を制限 (宗教地区での集会は条件付きで可)	「3密」を避けて実施(実施計画をICTが確認)	4/12~4/24 まん延防止等重点措置 4/25~6/20 緊急事態宣言 6/21~7/11 まん延防止等重点措置 7/12~9/30 緊急事態宣言 10/1~10/24 リバウンド防止措置期間
4/25~10/3			園内立入を制限 (宗教地区での集会不可・リモートのみ)	会食、コーラス、カラオケ等は中止または延期	
10/4~11/7		条件付きで可(ワクチン2回接種または3日以内のPCR検査で陰性) 来園時に検温と体調確認を実施	園内立入を制限 (宗教地区での集会は条件付きで可)	「3密」を避けて実施(実施計画をICTが確認) ・11/8~バスレク可(人数制限あり) ・1/8~会食、コーラスは中止または延期	
11/8~1/7					
2022年 1/8~1/16		緊急の場合を除き原則として不可	園内立入を制限 (宗教地区での集会不可・リモートのみ)	会食、コーラス、カラオケ等は中止または延期 ・3/22~園内での屋外活動は可	
1/17~4/10	2022年1/21~3/21 まん延防止等重点措置				

### 2. 職員による持ち込み防止対策

職員および同居者の体調不良時および濃厚接触者となった場合の対応(自宅待機の期間等)について、フローチャートで全職員に周知した。



### 3. 新型コロナウイルスワクチン接種実施状況

	職員	入所者※
事前説明	説明会開催日：2021年2/1、2/2、2/4 会場：福祉サービス棟3階研修室 説明者：園長、内科医長他 参加者数：計140名（全職種対象） （ワクチンの効果・副反応等についてのQ&AをICTニュースレターにて全部署に配布）	説明会開催日：5/13 会場：コミュニティセンター 説明者：内科医長 参加者数：入所者49名 （他の入所者には資料を配布し、内科医師、ICNおよび各部署の看護師より説明）
1回目	実施日：4/27、4/28、4/30（3日間） 会場：コミュニティセンター 当園での接種者数：414名 接種率：90.7%（他施設で接種した職員を含む）	実施日：5/31～6/17（12日間） 接種者数：115名（91.3%）
2回目	実施日：5/18、5/19、5/20、5/21（4日間） 会場：コミュニティセンター 当園での接種者数：413名 接種率：90.5%（他施設で接種した職員を含む）	実施日：6/21～7/20（13日間） 接種者数：114名（90.5%）
3回目	実施日：1/25～1/28、2/3、2/4、2/10（7日間） 会場：コミュニティセンター 当園での接種者数：384名	実施日：6/21～7/20（13日間） 接種者数：106名（89.8%）

※入所者の接種は、各病棟、センターおよび一般介護棟を医師が訪問して実施

### 4. 新型コロナウイルス感染症発生状況および検査実施状況（2021年4月～2022年3月）

陽性者数	入所者	0名
	職員	5名
園内検査件数	PCR検査（外注）	54件
	抗原定量検査（2022年1月稼働開始※）	35件

※2021年10月に生化学免疫自動分析装置『VITROS XT 7600』を導入し、SARS-CoV-2抗原定量検査試薬の発売に伴い、2022年1月より園内での抗原定量検査が実施可能となった。

## 5. 職員研修の実施状況

研修会名	研修内容	日程	対象者	参加者数
園内感染対策研修Ⅰ 「今やっておこう！ 新型コロナウイルス 感染症対策」	1. 動画視聴 1) 新型コロナウイルス感染症の 流行下で全職員が実施する標 準予防策（特に個人防護具の 正しい使い方）について 2) 個人防護具の着脱手順 2. 演習 個人防護具の着脱（全職員実施）	11/25 ～12/28	全職員	381名
園内感染対策研修Ⅱ 「復習☆個人防護具 着脱のポイント」	第1回目の研修「今やっておこう！ 新型コロナウイルス感染症対策」で 実施した個人防具着脱のポイントに ついて、問題解答形式で復習する	2022年 3/16 ～3/30	全職員	380名
手指衛生のプロセス サーベイランス 「直接観察法」につ いて	手指衛生遵守の取り組みを実施する 際に必要となるサーベイランスの方 法について学習する	7/15	感染対策リン ク会メンバー	計9名 看護師：7名 介護員：2名
器材の消毒・環境整 備について	園内で使用する可能性のある医療器 材（吸引器関連器材、経管栄養関連 器材等）の洗浄・消毒方法、日常の 環境清掃における留意点などにつ いて学習する	9/16	感染対策リン ク会メンバー	計9名 看護師：7名 介護員：2名
写真でラウンド ～感染対策の視点で 作業環境を見直す～	看護部各部署の手洗い場や水回りの 環境、ゾーニングの状況、ごみの分 別などについてICNがラウンドで撮 影した写真を共有し、改善のための 着眼点について学習する	10/21	感染対策リン ク会メンバー	計9名 看護師：7名 介護員：2名
個人防護具着脱の指 導者研修	全職員を対象に個人防護具着脱演習 を実施するため、指導者の養成を目 的として感染対策リンク会メンバ ーを対象に実施 1. 動画視聴 個人防護具の着脱手順 2. 演習 個人防護具着脱の実際	11/18	感染対策リン ク会メンバー	計9名 看護師：7名 介護員：2名



## Ⅱ 行事・園外からの受入・研修等報告





## 1. 令和3年度 国立療養所多磨全生園主要行事表

月	行事名	実施日時	備考
4月	職員紹介（観桜会）	4月6日（火）午後1時30分～	規模縮小にて実施
	看護学校入学式	4月7日（水）午後2時00分～	来賓縮小にて実施
5月	園内歩け歩け運動	5月12日（水）午後1時30分～	中止
7月	東京五輪セレブレーション（聖火リレー）	7月13日（火）	トーチキスのみ実施（コロナ対策有）
8月	夏の音楽祭	8月5日（木）午後2時00分～	納涼祭の代替で開催
9月	敬老の日記念式典	9月9日（木）午後1時30分～	規模縮小にて実施（市長祝辞代読、来賓無）
	墓参	9月16日（木）彼岸午後1時30分～	規模縮小にて実施
	全生園まつり（演芸）	9月下旬～10月18日（月）	中止
10月	合同慰霊祭	10月4日（月）午後1時30分～	来賓無
	全生園まつりセンターコーラス	10月18日（月）午後1時30分～	中止
	国立病院総合医学会	10月23日（土）	WEB開催
11月	全生園まつり	11月2日（火）～11月5日（金）	中止（展示物等のみ実施）
	コメディカル学会学術集会	11月12日（金）～11月13日（土）	WEB開催
	全生園音楽祭	11月16日（火）午後2時30分～	
	焼き芋会	11月17日（水）午後1時30分～	会場での食は中止
3月	看護学校卒業式	3月2日（水）午後1時30分～	コロナ対策実施
	墓参	3月16日（水）彼岸午後1時30分～	

## 2. 主要な視察状況（令和3年度）

来園者	年月日	備考
藤厚生労働副大臣	2021年11月19日	医政局：審議官、医療経営支援課長、推進室長、政策医療推進官 健康局：審議官、難病対策課長

### 3. 看護学生実習・施設見学・研修等施設利用許可状況

#### 1. 実習受け入れ状況

##### 1) 国立ハンセン病療養所附属看護学校

	学校名	実習者数	実習名	受け入れ期間	実習場所
1 学年	国立ハンセン病療養所 附属看護学校	9名	基礎看護学	R 3年10月18日 ～11月5日	1 病棟 やすらぎ病棟
		1名	基礎看護学	R 3年12月8日	1 病棟
		8名	成人看護学	R 4年1月11日 ～1月28日 2月8日～25日	1 病棟
2 学年	国立ハンセン病療養所 附属看護学校	10名	老年看護学	R 3年9月1日～17日 10月1日～15日	1 病棟 やすらぎ病棟
		20名	在宅看護論	R 3年8月30日 ～9月17日 9月17日～10月15日	第1センター 第3西センター 治療棟 一般寮支援室

##### 2) その他

	学校名	実習者数	実習名	受け入れ期間	実習場所
1	国際医療福祉大学 国際看護学領域	3名	看護学統合実践実習	R 3年6月1日 ～6月10日	やすらぎ病棟 第1センター 第3西センター
2	上智大学 総合人間科学部 看護学科	5名	基礎看護学統合実習	R 3年8月24日 ～8月31日	やすらぎ病棟 第1センター 第3西センター

## 2. 研修・見学等、その他施設利用状況

### 1) 申請数

月	研修・見学等		その他施設利用者	
	件数	人数	件数	人数
4	1	35	0	0
5	0	0	0	0
6	0	0	0	0
7	0	0	1	10
8	0	0	0	0
9	1	4	0	0
10	0	0	1	6
11	0	0	1	10
12	0	0	1	10
1	0	0	2	25
2	0	0	2	30
3	0	0	0	0
合計	2	39	8	91

総合計件数	総合計人数
10	130

### 2) 申請属性件数

属性	研修・見学等		その他施設利用者	
	件数	人数	件数	人数
NPO			2	20
保育園			1	10
企業				
教職員				
公務員				
任意団体			1	10
法曹界				
宗教団体			1	6
小学生				
中学生				
高校生				
大学生、大学院生	1	4		
看護系教育機関				
労働組合				
報道機関				
一般市民				
人権啓発団体				
園職員、学芸員等				
医療機関				
障害者支援施設				
民政委員				
教育委員会	1	35		
P T A			3	45
福祉系教育機関				
医薬系教育機関				
合計	2	39	8	91

### 2-1) 研修・見学等利用者内訳

◎ 入所者等語り部有り

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的	資料館
1	4月22日	東村山市教育委員会	教育委員会	35	園内に駐車したバスの中から見学	新職員が市内の施設の理解を深めるための見学	×
2	9月8日	横浜市立大学医学部看護学科	大学生、大学院生	4	園内	感染症の歴史と現状を学び、今後の感染看護に活かす	○

### 2-2) その他施設利用者内訳

	日時	利用団体名	属性	人員	場所	目的
1	10月29日	立正佼成会東村山教会	宗教団体	6	納骨堂前	全生園にまつわる諸精霊への慰霊供養
2	11月13日	グループはばたき	任意団体	10	園内	野鳥・植物観察
3	1月26日	特定非営利活動法人東村山生き生きまちづくり	NPO	10	「柿」舎、耕作地	農作業(保育園いもほり用じゃがいも植付準備)

#### 4. ボランティア受入状況等

	実施日時等	項目（名称）	団体名	人数	主な内容
1	年間を通し、毎週火・木	陶芸	全生園陶芸倶楽部	8名	陶芸通じて親睦をはかる
2	週1回 不定期	折り紙	四季の折り紙の会	4～5名	折り紙通じて親睦をはかる
3	年間を通し、適宜	環境整備	東村山生き生きまちづくり	5～10名	樹木の剪定、農耕地環境整備、他
4	年間を通し、適宜	環境整備	天理教むさしの支部	10～20名	樹木の剪定、除草、清掃
5	年間を通し、適宜	環境整備	全生園テニスクラブ	4～5名	テニスコートの除草、清掃
6	2021年7月1日	環境整備	花さき保育園職員	10名	納骨堂周辺清掃
7	2022年1月22日、2月6日、2月20日	環境整備	青葉小学校PTA	15名	通学路使用エリアの清掃

## 5. 研究活動、研修参加、倫理審査委員会状況

### 1. 研究発表

#### 1) 施設内発表

番号	題名	発表者（所属）	発表年月日
1	不自由者棟で入職介助に関わる女性介護職の思い	塩野達也	令和4年3月15日
2	緑内障治療薬を自己点眼する患者の点眼アドヒアランス向上のための眼科看護師の役割～患者指導パンフレット及び個人点眼表を用いた看護介入～	阪田暢子	令和4年3月15日
3	ハンセン病後遺症がある入所者の緑内障治療薬の点眼アドヒアランスの実態	山上由美	令和4年3月15日
4	アロマセラピーによるフットケア園内認定看護師の活動支援の課題～ハンセン病療養所看護師調査からの探求～	山上由美	令和4年3月15日

#### 2) 施設外発表

番号	題名	発表者（所属）	学会名等（場所）	発表年月日
1	不自由者棟で入浴介助に関わる女性介護職の思い	塩野達也 白石綾子 高橋 勝	ハンセン病 コ・メディカル学術 集会（沖縄）	令和3年11月1日～ 31日（WEB）
2	緑内障治療薬を自己点眼する患者の点眼アドヒアランス向上のための眼科看護師の役割～患者指導パンフレット及び個人点眼表を用いた看護介入～	阪田暢子 山上由美	ハンセン病 コ・メディカル学術 集会（沖縄）	令和3年11月1日～ 31日（WEB）
3	ハンセン病後遺症がある入所者の緑内障治療薬の点眼アドヒアランスの実態	山上由美 阪田暢子	第37回日本視機能看護学会学術総会	令和3年10月1日～ 7日（WEB）
4	アロマセラピーによるフットケア園内認定看護師の活動支援の課題～ハンセン病療養所看護師調査からの探求～	山上由美	第24回日本アロマセラピー学会学術総会	令和3年12月11日 ～12日（WEB）
5	不自由者棟（センター）に所属する看護師・介護員の関係性における困難と対処 －看護師・介護員の視点より－	高橋 勝 梶原順子	第19回国立病院看護研究学会学術集会	令和3年12月11日 ～令和4年1月21日 （WEB）

## 2. 研修参加状況

### 1) 施設内参加状況（看護研究会・病院主催等）

研修会名	研修内容（目的）	研修期間	職種	参加人員
2021年度 園内感染対策研修Ⅰ 「今やっておこう！新型コロナウイルス感染症対策」	1. 動画視聴 1) 新型コロナウイルス感染症の流行下で全職員が実施する標準予防策 2) 個人防護具の着脱手順 2. 演習 個人防護具着脱の実際（全職員実施）	2021年11月25日～ 2021年12月28日	全職員	381名
2021年度 園内感染対策研修Ⅱ 「復習・個人防護具着脱のポイント」	第1回目の研修「今やっておこう！新型コロナウイルス感染症対策」で実施した個人防護具着脱のポイントについて、問題解答形式で復習する	2022年3月16日～ 2022年3月30日	全職員	380名
手指衛生のプロセス サーベイランス 「直接観察法」について	手指衛生遵守の取り組みを実施する際に必要となるサーベイランスの方法について学習する	2021年7月15日	感染リンク メンバー	9名
器材の消毒・環境整備 について	園内で使用する可能性のある医療器材（吸引器関連器材、経管栄養関連器材等）の洗浄・消毒方法、日常の環境清掃における留意点などについて学習する	2022年9月16日	感染リンク メンバー	9名
写真でラウンド ～感染対策の視点で作業環境を見直す～	看護部各部署の手洗い場や水回りの環境、ゾーニングの状況、ごみの分別などについてICNがラウンドで撮影した写真を共有し、改善のための着眼点について学習する	2021年10月21日	感染リンク メンバー	9名
個人防護具着脱の指導者研修	全職員を対象に個人防護具着脱演習を実施するため、指導者の養成を目的として感染対策リンク会メンバーを対象に実施 1. 動画視聴 個人防護具の着脱手順 2. 演習 個人防護具着脱の実際	2021年11月18日	感染リンク メンバー	9名
医療安全対策研修 AED・エアストレッチャー研修	AEDの取り扱い実技・点検方法エアストレッチャー使用方法、実技	2021年7月19日	全職員	参加者28名 伝達261名
医療安全対策研修 Eコール研修	一次救命処置緊急招集コール搬送訓練（現場から治療棟）	2022年3月9日	全職員	参加者28名 伝達294名
診療放射線の安全利用 の研修	診療用放射線について理解を深める	2021年11月18日	診療放射線に関わる医師・ 看護師・放射線技師	142名



## 2) 施設外参加状況

### (1) 厚生労働省・厚生局関係

研修会名	研修内容(目標)	主催	職種	研修期間	参加人数
令和3年度中間管理職 新任研修	中間管理者としての役割と責任を認識し、職務に必要な知識・技術・態度を習得するとともに、管理能力の向上を図る。	国立病院機構 関信グループ	看護師長	令和3年8月16日 ～9月17日 9月29・30日	1名
令和3年度看護師等実 習指導者講習会	実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識・技術を習得する。	国立病院機構 関信グループ	看護師	令和3年8月16日 ～9月10日 9月27日～10月 15日 10月26日～10月 28日	1名
令和3年度国立ハンセ ン病療養所認知症高齢 者の看護マネジメント 研修	国立ハンセン病療養所の入所者への認知症および高齢者ケアの質の向上を図るとともに、中心的役割を果たせる能力を養う。	厚生労働省医政局	副看護師長	令和3年12月9日	2名
令和3年度国立ハンセ ン病療養所介護員研修	介護員の役割と責任を再認識するとともに業務遂行上必要な知識・技術・態度の向上を図る。	厚生労働省医政局	介護員	令和3年10月1日 ～30日各施設 令和3年11月18 日(WEB)	2名
令和3年度呼吸器疾患 看護研修会	呼吸器疾患医療及び看護に関する専門的知識を取得し、呼吸器疾患看護に従事する看護師のスキルアップを図る。	NHO東京病院	看護師長	令和4年3月3日	3名

### (2) 個人(自費)にて参加した研修

研修会名	研修内容(目標)	主催	職種	研修期間	参加人数
令和3年度透析療法従 事職員研修	透析療法に関して、専門従事者の技術向上に資する。	東京女子医科大学 病院	看護師	令和3年8月9日 ～31日(WEB)	1名

### (3) 県・市主催関係

研修会名	主催	研修期間	参加人員

### (4) 日本看護協会関係

研修会名	主催	研修期間	参加人員
ネットワーク研修会	東京都ナースプラザ 国立療養所多磨全生園	令和4年3月7日	25名

## (5) その他

研修会名	主催	研修期間	参加人員
保健師助産師看護師実習指導者講習会	国立看護大学校	令和3年9月15日～ 11月19日	1名
認知症患者の看護と感染対策	国立看護大学校	令和3年8月24日	2名
院内教育Ⅰ	国立看護大学校	令和3年9月16日～ 23日	1名
院内教育Ⅱ	国立看護大学校	令和3年9月16日～ 30日	1名
院内教育Ⅲ	国立看護大学校	令和3年9月16日～ 10月7日	1名
援助方法としてのプロセスレコード	国立看護大学校	令和4年2月3日～ 2月10日	2名

## (6) 座長・講師等

研修会名	氏名（職責）	座長・講師	研修日
心とからだの健康（アロマテラピー）	山上由美（治療棟看護師）	講師	令和3年5月8日～ 5月29日
令和3年度国立ハンセン病療養所認知症 高齢者の看護マネジメント研修	梶原順子	講師	令和3年11月10日～ 30日
ハンセン病看護	富 さなえ（一般寮支援室）	講師	令和4年3月10日

### 3) 研究業績・研修参加状況

#### <学会発表>

1. 軽部太一他：文献からみた新人看護師のインシデント・アクシデントの現状と要因，第19回国立病院看護研究学会学術集会，令和3年12月11日～令和4年1月21日

#### <国立病院機構、国立看護大学校主催研修参加状況>

1. 小林愛子、大家枝利、軽部太一、疋田理津子、山谷なぎさ、吉田照子、梶原順子、松橋綾子：  
令和3年度NHO関東信越グループ夏季研修会  
看護教員のための教育力を上げる安全・安心なオンライン授業  
講師：西村礼子先生 東京医療保健大学医療保健学部看護学科准教授

#### <その他の研修参加状況（自費）>

1. 小林愛子、大家枝利、軽部太一、疋田理津子、山谷なぎさ、吉田照子、松橋綾子：  
WEB研修会（医学書院主催）  
第1回 EXTRA:2020年カリキュラム編成準備セミナーの振り返りとご質問へのご回答  
山田雅子先生（聖路加国際大学大学院看護学研究科在宅看護学分野・教授）  
池西静江先生（Office Kyo-Shien代表、日本看護学校協議会会長）、他  
第2回 ICTをどう活用していくか  
講師：西村礼子先生（東京医療保健大学医療保健学部看護学科・准教授）、他  
第3回 シミュレーション教育の効果的な活用に向けて  
講師：藤野ユリ子先生（福岡女学院看護大学・教授）  
出崎由華先生（埼玉県立高等看護学院）  
内藤知佐子先生（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 臨床看護学）  
第4回 新たなカリキュラムに向けて、教育の枠組みをとらえ直す  
講師：池西静江先生（Office Kyo-Shien代表、日本看護学校協議会会長）、他  
第5回 臨床判断の基礎  
講師：水戸優子先生（神奈川県立保健福祉大学・教授）、他

#### <研究授業等参加状況>

なし

#### <学術集会等への参加>

なし

#### <看護教員インターンシップ実施状況>

なし

4) 令和3年度 園内研修会参加状況 (2021/4/1～2022/3/31)

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
第1回研究検査科勉強会「検査データの見方・読み方－生化学・血液・免疫編－」	R3.6.14	検査科 (Web研修会)	検査科学術	検体系	渡邊孝浩、平本研二、望月規央、青木正哉、岡野行広、早川真奈美、久高果市
第1回医療安全研修会 (AED)	R3.7.19	コミュニケーションセンター	医療安全推進部会	医療安全	青木正哉
第1回医療安全研修会 (AED) 伝達講習	R3.8.31	検査科洗浄室	医療安全推進部会	医療安全	渡邊孝浩、平本研二、望月規央、岡野行広、早川真奈美、久高果市
第1回ICT研修会「PPEの着脱法実技演習」	R3.12	研修棟ABC	ICT	感染対策	渡邊孝浩、望月規央、青木正哉、岡野行広、早川真奈美、久高果市、平本研二
認知症ケアチーム委員会研修「認知症の人の体験世界を感じてみよう」	R4.1	研究検査科	認知症ケアチーム	認知症対策系	渡邊孝浩、望月規央、青木正哉、岡野行広、早川真奈美、久高果市
2021年度 第2回医療安全研修会 (Eコール)	R4.3.9	一般寮、治療棟	医療安全管理部会	医療安全	青木正哉
2021年度 感染対策研修会2	R4.3.16-30	書面研修	ICT	感染対策	渡邊孝浩、平本研二、望月規央、青木正哉、岡野行広、早川真奈美、久高果市

5) 令和3年度 園外研修会参加状況 (2021/4/1～2022/3/31)

学会・研修会名	開催日時	開催場所	主催	部門	参加者
富士フィルムメディカルWEBセミナー2021「新型コロナウイルス感染症に対する検査法の開発」	2021/7/21-8/2	WEB	富士フィルムメディカル株式会社	免疫	青木正哉
令和3年度 第1回国臨協関信支部主催研修会	2021/7/30-8/13	WEB	国臨協関信支部	全般	青木正哉、平本研二
令和3年度 第2回国臨協関信支部主催研修会	2021/10/29-11/12	WEB	国臨協関信支部	血液	青木正哉、平本研二
タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会	2021/9/7	WEB	日本臨床衛生検査技士会	全般	渡邊孝浩
第75回国立病院総合医学会	2021/10/23	WEB	国立病院機構	全般	渡邊孝浩
JSS北海道 第41回地方研修会	2021/12/5	WEB	日本超音波検査学会	生理	渡邊孝浩
JSS関西 第36回地方研修会	2022/1/16	WEB	日本超音波検査学会	生理	渡邊孝浩
令和3年度 国臨協関信支部主催 症例検討会	2022/2/19	WEB	国臨協関信支部	全般	早川真奈美、平本研二

### 3. 国立療養所多磨全生園ヒトを対象とする医学研究倫理審査委員会状況（令和3年度）

承認番号	課題名	審査結果	実施期間	代表者
03-01	不自由者棟での入浴介助に関わる女性介助員の思い	迅速審査 「承認」	2021年4月15日～2022年3月31日	塩野 達也
03-02	ハンセン病療養所のアロマセラピーによるフットケア園内認定看護師の活動支援に関する課題～入所者・フットケア認定看護師・管理者への調査からの探求～	迅速審査 「承認」	2021年4月9日～2022年3月31日	山上 由美
03-03	フィブリノゲン製剤・血液凝固因子製剤投与に係る診療録（カルテ等）に対して自主的に調査を行っている医療機関でのその実施状況に関する研究	迅速審査 「承認」	2021年7月19日～2022年3月31日	正木 尚彦
03-04	介護員の情報共有についての意識調査	迅速審査 「承認」	2021年5月21日～2022年3月31日	田島 里美
03-05	A病棟に勤務する看護師の与薬の確認行動6Rの意識調査～与薬原則の6Rについてのアンケート調査より～	迅速審査 「承認」	2021年6月21日～2022年3月31日	姜 平
03-06	ハンセン病療養所の入所者が抱いたコロナ禍での行動制限に対する思い	迅速審査 「承認」	2021年7月1日～2022年3月32日	岡田 正之
03-07	ハンセン病療養所Aセンター入所者が求めている看護師の役割について	迅速審査 「承認」	2021年8月16日～2022年3月31日	大仲 真希
03-08	看護管理者（看護師長）への昇任前研修の構築～昇任前研修の標準化を目指して～	迅速審査 「承認」	2021年11月15日～2022年3月31日	高橋 勝
03-09	「理想の介護員像」研修が受講者（副介護長）に与えた影響	迅速審査 「承認」	2022年2月14日～2022年6月30日	岩崎 徹也

国立療養所多磨全生園ヒトを対象とする医学研究倫理審査委員会 委員名簿 (R3.4.1)			
職 名	氏 名	備 考	
国立療養所多磨全生園 副院長	三宅 智	委員長	
国立療養所多磨全生園 総務部長	松本 良一		
国立療養所多磨全生園 看護部長	梶原 順子		
国立療養所多磨全生園 医療職 (一) 代表	村上 龍司		
国立療養所多磨全生園 医療職 (二) 代表	筒井 秀知		
国立療養所多磨全生園 医療職 (三) 代表	田崎 明子		
国立療養所多磨全生園 行政職 (一) 代表	久米 俊		
国立感染症研究所ハenson病研究センター	阿戸 学		
法務省人権擁護委員	江藤 佳子	規程第4条第1項(1), (2), (3)委員	
上智大学法学部	岩田 太		
国立療養所多磨全生園 庶務課長	大船 省三	事務局	

## 6. 規程の改訂状況（令和3年度）

規程名	年月日	備考（理由等）
組織細則の一部改正	2021年4月1日	事務部門組織改編による改正
国立療養所多磨全生園附属看護学校組織細則	2021年4月1日	組織改編に伴う改正
保育所運営規程	2021年4月1日	入園料から入園契約料への変更
ヒトを対象とする医学研究倫理審査委員会	2021年4月1日	人事異動に係る委員名簿の改訂
国立療養所多磨全生園文書取扱規則	2021年6月28日	4/1付け組織改編及び厚生労働省文書取扱規則の一部改正に伴う改正
国立療養所多磨全生園附属看護学校文書取扱規則	2021年6月28日	4/1付け組織改編及び厚生労働省文書取扱規則の一部改正に伴う改正
国立療養所多磨全生園ハラメント調査委員会設置規程	2022年2月14日	新設
国立療養所多磨全生園タブレット端末運用規程	2022年2月24日	Web面会用タブレット導入に伴い新設
国立療養所多磨全生園防災管理規程	2022年3月31日	2021/4/1付け組織改変に伴う改正

### Ⅲ 統計資料





## 1. 職員定員・現員、永年勤続授賞者等

### (1) 定員内職員

各年度4月1日現在

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
指定	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
行(一)	18	19	18	17	18	18	18	18	18	18	22	22
行(二)	105	105	104	102	104	100	102	101	102	100	101	99
医(一)	23	15	23	14	23	11	23	15	23	15	23	16
医(二)	28	28	29	26	30	28	30	27	28	27	27	27
医(三)	153	149	153	148	153	151	153	144	145	136	140	133
福祉	3	3	4	3	5	3	5	3	5	4	5	4
教(二)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
計	338	327	339	318	341	319	339	316	329	308	326	309

### (2) 賃金職員・期間業務職員

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	現員	現員
行(一)		1			2	2	7	7	7	9
行(二)	75	52	75	41	73	32	68	29	24	17
医(一)										
医(二)										
医(三)										
福祉	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	79	57	79	45	79	38	79	40	35	30

(3) 令和3年度永年勤続表彰者

30年表彰		20年表彰	
職名	氏名	職名	氏名
人事課長	大竹 正伸	介護長	岡田 正之
作業手	大塚 誠一	看護助手	岡山 耕平
副食主任	西谷 孝	看護助手	高部 敦
特食主任	丸山 和巳	義肢装具士	後藤 直生
調理師	大竹 清治	看護師	中 敬子
調理師	宮崎 浩昭		
看護師	笠井 陽子		
看護師	山下 智津子		



30年表彰



20年表彰

(4) 令和3年度叙勲授賞者

氏名	在籍時職名	在職期間	叙勲関係	備考
		対象者なし		

(5) 職員の健康管理

令和3年度末現在職員数	314人	うち 40歳以上 36歳以上～39歳 35歳	281人 14人 3人
-------------	------	------------------------------	-------------------

① 一般の健康診断

項目		健康診断の受診人員等					指導区分及び事後措置					就業禁止						
		対象者数 人	受診実人員 人	精密検査対象者数 人	精密検査実施数 人	経過観察実施数 人	指導区分(医療の面)		勤務上の措置									
							要医療 人	要観察 人	休暇又は休職 人	勤務の軽減かつ時間外勤務等の制限 人	総合的な健康診断 人		総合的な健康診断 人	総合的な健康診断 人				
															総合的な健康診断 人	総合的な健康診断 人	総合的な健康診断 人	総合的な健康診断 人
肺	肺がん胸部エックス線検査	281 (33)	249 (28)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	結核胸部エックス線検査	314	277	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	喀痰細胞診	23 (0)	13 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
一般	血圧測定	314	271	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血糖検査	284 (30)	279 (28)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	尿検査(蛋白) 尿検査(糖)	314 314	307 307	2 2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
循環器	心電図検査	284 (30)	255 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	LDL コレステロール値	284 (30)	279 (28)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	HDL コレステロール値	284 (30)	279 (28)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
健康	中性脂肪検査	284 (30)	279 (28)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	貧血検査	284 (30)	279 (28)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	胃エックス線検査	281 (33)	28 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
胃	胃内視鏡検査	281 (33)	0 (0)	14 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	肝臓	284 (30)	279 (28)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大腸	便潜血反応検査	281 (33)	52 (0)	11 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

② 臨時の健康診断

項目	健康診断の受診人員、所要経費等										指導区分及び事後措置						
	対象者数 人	受診 実人員 人		精密検査 対象者数 人		精密検査 実施数 人		経過観察 実施数 人		所要経費		指導区分(医療の面)		勤務上の措置		就業 禁止 人	
		健康診断 健康診断	総合的な 健康診断	健康診断 健康診断	健康診断 健康診断	健康診断 健康診断	健康診断 健康診断	健康診断 健康診断	健康診断 健康診断	健康診断 健康診断	健康診断 健康診断	健康診断 健康診断	健康診断 健康診断	健康診断 健康診断	健康診断 健康診断		健康診断 健康診断
第21条関係(1)~(8)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子宮頸がん検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳がん検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情報機器健診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
超過勤務検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B、C型肝炎検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
HBS抗原、抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
HCV抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
採用時の健康診断																	
非常勤職員の一時的健康診断 上記以外の非常勤	49	48	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(2)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
総合的な健康診断	314	307		0	0	0	0	0	0	1,136,145	0	0	0	0	0	0	0
	(49)	(2)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(45,100)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
心理的な負担の 程度を把握する ための検査	314	258		0	0	0	0	0	0	632,500	0	0	0	0	0	0	0
	(49)	(36)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

総合的な健康診断の受診状況(常勤職員)

	受診者数	重複受診者数
40歳以上	54人	0人
36歳以上40歳未満	1人	0人
35歳	0人	0人
35歳未満	0人	0人

保健指導の実施状況

4項目有所見者数	0人
精密検査実施数	0人
保健指導実施数	0人

③ 特別の健康診断

項目	業務別健康診断の受診人員等										指導区分及び事後措置						
	対象者数	受診実人員	受診延人員	精密検査対象者数	精密検査実施数	経過観察実施数	指導区分(医療の面)		勤務上の措置		就業禁止						
							要医療	要観察	休暇又は休職	勤務の軽減かつ時間外勤務等の制限							
第1号	7	6	1	13	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2号	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
第3号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第4号	7	6	1	13	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第5号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第6号	14	12	2	26	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第7号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第8号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第10号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第12号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第2号	5	5	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3号	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
第4号	7	4	3	11	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第5号	235	234	13	480	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第6号	125	115	10	240	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第7号	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第8号	72	72	4	1,610	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第9号	69	69	0	138	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第9号	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上記特別定期健康診断を必要とする業務への配置前の健康診断																	
非常勤職員の特別定期健康診断																	

## 2. 経理関係

### (1) 歳入・歳出決算額

歳入科目	単位：千円
雑収入	20,606
国有財産収入	3,560
諸収入	17,046
歳出科目	単位：千円
国立ハンセン療養所	3,377,881
職員基本給	1,353,058
職員諸手当	626,249
超過勤務手当	96,939
非常勤職員手当	125
短時間職員給与	46,086
児童手当	13,250
施設施工旅費	0
施設施工庁費	16,472
施設整備費	133,430
諸謝金	5,351
入所者作業謝金	1,387
入所者給与金	39,679
職員旅費	0
研修旅費	0
外国旅費	0
委員等旅費	49
生徒旅費	139
入所者転送等旅費	0
庁費	23,080
情報処理業務庁費	0
入所者療養諸費	773,188
受託研究費	0
医療機器整備費	63,909
医薬品等購入費	100,949
通信専用料	0
各所修繕	2,678
入所者食糧費	81,643
自動車重量税	220

### (2) 医療機器整備状況

品名	規格・型式	単位：千円
X線CT装置 X線管球	キヤノンメディカルシステムズ CXB-400C/1A	17,600
逆浸透精製水製造システム	日本ウォーターシステム(株) MXR-253	8,470
生化学免疫自動分析装置	オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス(株) ビトロスXT7600	9,063
心電計	日本光電(株) cardiofaxM ECG-2320	1,639
胸部読影支援システム	東陽テクニカ ClearReadModality	4,944
デジタルX線画像処理システム	近畿レントゲン CS7600CRシステム	3,630
残尿測定装置	すみれ医療(株) MD-6000	864
X線撮影用患者椅子	ドクタージャパン(株) ELDORADO	979
全自動錠剤分包機	トーショー カセット数204個 Xana-2040EU	12,375
車椅子式入浴装置	酒井医療(株)カトリア浴槽 CTA-200	4,345

### (3) 施設整備状況

工事名	単位：千円
新病棟冷温水発生機及び冷却塔更新工事	45,430
事務本館及び新センター防災設備更新工事	41,800
新センター電力設備更新・交換工事	46,200



### 3. 入所者関係

#### (1) 平成28年度～令和3年度 年度別入所者数

	28年度		29年度		30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
年度未入所者数 (人)	81	96	75	93	72	85	66	80	57	71	49	68
	計	177	168	157	計	146	計	128	計	117	計	117
	男	83.6	84.0	84.3	84.7	男	84.9	男	85.2	女	89.0	女
年度未平均年齢 (歳)	86.2	87.0	87.0	87.4	女	88.2	女	88.5	計	86.9	計	87.4
	計	85.0	85.5	86.0	計	86.6	計	86.9	計	87.4	計	87.4
	男	5	4	1	3	男	8	男	6	女	1	女
再入所者数 (人)	9	1	0	2	女	3	女	3	計	11	計	7
	計	14	5	1	計	5	計	11	計	15	計	15
	男	15	10	4	9	男	17	男	15	女	4	女
退所者数 (人)	15	15	4	8	女	12	女	16	計	29	計	19
	計	30	14	12	計	12	計	16	計	19	計	19
	男	11	8	4	7	男	10	男	10	女	4	女
死亡者数 (人)	8	4	4	8	女	12	女	12	計	7	計	5
	計	19	12	0	計	0	計	2	計	3	計	5
	男	4	2	0	2	男	10	男	7	女	0	女
退所者・社会復帰者数 (人)	7	0	0	0	女	0	女	4	計	10	計	5
	計	11	2	0	計	0	計	4	計	0	計	0
	男	0	0	0	0	男	0	男	0	女	0	女
転退所 (人)	0	0	0	0	女	0	女	0	計	0	計	0
	計	0	0	0	計	0	計	0	計	0	計	0
	男	0	0	0	0	男	0	男	0	女	0	女

## (2) 月別推移状況

年月	区分	繰越入所者数	転入再入所者数	転退所者数	死亡者数(再計)	月末入所者数	延入所者数	月末入所者数	平均入所者数
令和3年. 4		128	0	1	1	127	3,819	127	127.3
	5	127	0	1	1	126	3,927	126	126.7
	6	126	0	0	0	126	3,780	126	126.0
	7	126	4	5	2	125	3,898	125	125.7
	8	125	1	2	1	124	3,832	124	123.6
	9	124	0	2	2	122	3,680	122	122.7
	10	122	0	1	1	121	3,777	121	121.8
	11	121	0	1	1	120	3,628	120	120.9
	12	120	1	0	0	121	3,751	121	121.0
令和4年. 1		121	0	3	3	118	3,703	118	119.5
	2	118	1	1	0	118	3,324	118	118.7
	3	118	1	2	2	117	3,667	117	118.3
	計		8	19	14				

## (3) 年齢別人数

(年度末現在)

区分	男	女	計	構成比
45歳未満	0	0	0	0.0%
45～49歳	0	0	0	0.0%
50～54歳	0	0	0	0.0%
55～59歳	0	0	0	0.0%
60～64歳	0	0	0	0.0%
65～69歳	1	0	1	0.9%
70～74歳	6	0	6	5.1%
75～79歳	4	6	10	8.5%
80～84歳	11	9	20	17.1%
85～89歳	10	21	31	26.5%
90～94歳	11	18	29	24.8%
95～99歳	5	10	15	12.8%
100歳以上	1	4	5	4.3%
合計	49	68	117	100.0%

## (4) 在所期間別人数調

(年度末現在)

区分	男	女	計	構成比
5年未満	4	3	7	6.0%
5～10年	4	5	9	7.7%
11～15年	2	0	2	1.7%
16～20年	2	1	3	2.6%
21～25年	3	2	5	4.3%
26～30年	3	3	6	5.1%
31～35年	4	8	12	10.3%
36～40年	2	5	7	6.0%
41～45年	2	0	2	1.7%
46～50年	2	8	10	8.5%
51～55年	3	4	7	6.0%
56～60年	4	6	10	8.5%
61～65年	5	3	8	6.8%
66年以上	9	20	29	24.8%
計	49	68	117	100.0%

(5) 開園〔1909年〕以来年齢別死亡者数調

(年度末現在)

性別	年齢	0～9	10～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59
男		13	75	205	281	357	348	287	224	196	175
女		8	37	58	74	78	90	73	70	66	70
計		21	112	263	355	435	438	360	294	262	245
性別	年齢	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	不詳	計
男		154	165	151	140	127	116	94	2	9	3,119
女		67	51	74	60	77	82	93	12	6	1,146
計		221	216	225	200	204	198	187	14	15	4,265

(6) 月別寮籍別入所者数

(月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1センター	32	32	33	32	32	32	33	34	31	33	33	33
第3西センター	25	26	26	24	24	23	24	25	24	23	24	24
新センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般寮	41	39	36	38	39	39	38	38	38	36	33	35
病棟籍	29	29	31	31	29	28	26	23	28	26	28	25
合計	127	126	126	125	124	122	121	120	121	118	118	117

(7) 疾病別死亡患者数統計表 (全科)

【全科】

集計期間：平成27年4月1日～令和4年3月31日

ICD10コード	疾病名	死亡者数					
		28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
C20	直腸癌	1					
C61	前立腺癌			1			
C169	胃癌	1					
C189	大腸癌	1					
C220	肝臓癌					2	1
C221	胆管細胞癌					1	
C259	膵臓癌	2		1			2
C349	肺癌			1	1		
C549	子宮体癌	1					
C859	悪性リンパ腫		1				
D046	右上腕ボーエン病						
D374	大腸腫瘍						
D376	肝腫瘍		1				
D383	縦隔腫瘍						
D432	脳腫瘍	1					
G595	頸髄症						
G919	硬膜下水腫	1					
I219	急性心筋梗塞		1				
I255	心筋虚血				1		
I49	その他不整脈						2
I500	うっ血性心不全	1	1			1	
I509	心不全	2	2	1		4	2
I619	脳出血		1				
I635	脳幹梗塞	1					
I639	脳梗塞			1			1
I71	大動脈瘤及び解離						1
J189	肺炎	3		2	6	2	
J810	肺水腫					1	
J849	間質性肺炎		1				
J9609	急性呼吸不全		1		1		
K567	腸閉塞			1		1	1
K650	急性腹膜炎					1	
K810	胆嚢炎					1	
K922	消化管出血						1
N178	急性腎不全	1		1	1	1	
N189	慢性腎不全	1				1	
R54	老衰	2	3	2	2	1	3
R688	多臓器不全			1		1	
R99	診断不明確					1	

(8) 委託診療件数 (施設別・入院・外来別)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来
NHO 東京病院	1	4	5	1	7	1	6	2	6	7	7	7	7	7	7	7	7	9	4	4	7	5	6	5	75	
NHO 村山医療センター						1													1	1			0		2	
NHO 埼玉病院			2					1	1		1				2			3	1	1	1		1	1	12	
国立国際医療研究センター										1														0	1	
公立昭和病院	1	1	4	3	3	1	2	1	2		1	1	1		1	1	1	1	2				3	13	14	
杏林大学病院	1		2	1	3	1	2	1		1	1	1	1	1	1	1	2	2	2				3	5	20	
多摩北部医療センター	2		1		2	1	1	1	1		2			2	3			1	1	1	1	3	1	1	18	
複十字病院											1													1	0	2
新山手病院	1				1	1	1	1	1		1	1	1		1	1		1						1	7	
武蔵村山病院	1				1				1		1			1	2			1					2	0	9	
東京白十字病院	2		2	1	1	1	1			2			2	1	1	1		1	1	1			1	2	10	
うしき産婦人科クリニック	1				1	1	1	1	1						1			1						1	0	7
秋津眼科医医院	1						1															1		0	3	
所沢肛門病院										1															0	1
榊原記念病院																				1				0	2	
計	2	14	4	12	6	19	4	16	5	13	1	11	0	15	3	18	2	20	0	13	0	16	1	16	28	183

\* 延べ件数 (件)

(9) 平成27年度から令和3年度 医療社会事業（ソーシャルワーク）統計

① 相談件数

年度	入所者	外来
平成27年度	3,307	322
平成28年度	3,074	325
平成29年度	2,676	316
平成30年度	2,322	291
令和元年度	2,222	280
令和2年度	1,998	135
令和3年度	1,749	140
計	17,348	1,809

② 援助内容

年度	心理社会的問題援助	退院援助	受診受療援助	経済的問題	社会復帰援助
平成27年度	2,263	0	866	1,960	0
平成28年度	2,109	0	86	1,823	0
平成29年度	1,889	0	739	1,721	0
平成30年度	1,672	0	706	1,499	2
令和元年度	1,650	0	720	1,450	1
令和2年度	1,468	0	654	1,295	0
令和3年度	1,173	0	586	1,030	0
計	12,224	0	4,357	10,778	3

③ 援助方法

年度	面談	電話・書信での相談	電話等での調整収集提供	協議・カンファレンス	記録文書	訪問
平成27年度	2,588	967	990	1,722	1,910	9
平成28年度	2,314	1,172	1,140	1,583	2,045	9
平成29年度	2,116	1,086	1,113	1,331	1,826	6
平成30年度	1,716	956	947	1,243	1,663	6
令和元年度	1,645	1,004	1,035	1,232	1,644	3
令和2年度	1,535	992	974	1,111	1,488	2
令和3年度	1,157	841	749	907	1,282	1
計	13,071	7,018	6,199	9,129	11,858	36

④ 個別外援助

年度	院内カンファレンス・会議	文書・資料作成・整備	教育
平成27年度	20	28	6
平成28年度	27	24	6
平成29年度	27	19	8
平成30年度	40	15	6
令和元年度	28	12	6
令和2年度	24	9	0
令和3年度	23	5	0
計	189	112	32

#### 4. 治療棟診療科受診者数

(上段：延べ人数 下段：1日平均人数)

診療科/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
内科	156	121	147	135	168	122	138	178	176	153	151	195	1,840
	7.4	6.7	6.7	6.8	8.0	6.1	6.6	8.9	8.8	8.1	8.4	8.9	7.6
精神科	65	56	57	54	48	61	53	65	71	43	40	63	676
	3.1	3.1	2.6	2.7	2.3	3.1	2.5	3.3	3.6	2.3	2.2	2.9	2.8
神経内科	3	0	5	0	6	0	4	0	3	0	17	0	38
	0.1	0.0	0.2	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.9	0.0	0.2
耳鼻科	304	258	340	314	345	274	324	307	361	308	264	350	3,749
	14.5	14.3	15.5	15.7	16.4	13.7	15.4	15.4	18.1	16.2	14.7	15.9	15.5
皮膚科	447	358	386	357	339	337	336	372	336	420	353	423	4,464
	21.3	19.9	17.5	17.9	16.1	16.9	16.0	18.6	16.8	22.1	19.6	19.2	18.4
眼科	146	124	106	105	124	94	101	98	121	112	108	105	1,344
	7.0	6.9	4.8	5.3	5.9	4.7	4.8	4.9	6.1	5.9	6.0	4.8	5.6
外科	37	33	35	28	23	27	33	44	29	36	28	38	391
	1.8	1.8	1.6	1.4	1.1	1.4	1.6	2.2	1.5	1.9	1.6	1.7	1.6
整形外科	132	131	122	120	108	98	117	124	120	119	121	128	1,440
	6.3	7.3	5.5	6.0	5.1	4.9	5.6	6.2	6.0	6.3	6.7	5.8	6.0
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	17	24	31	22	9	9	9	7	11	20	9	10	178
	0.8	1.3	1.4	1.1	0.4	0.5	0.4	0.4	0.6	1.1	0.5	0.5	0.7
リハビリ科	115	98	135	101	121	88	109	120	100	113	96	126	1,322
	5.5	5.4	6.1	5.1	5.8	4.4	5.2	6.0	5.0	5.9	5.3	5.7	5.5
歯科	169	159	182	171	175	139	149	139	139	149	160	183	1,914
	8.0	8.8	8.3	8.6	8.3	7.0	7.1	7.0	7.0	7.8	8.9	8.3	7.9
乳腺外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
透析	12	12	13	6	4	0	0	0	0	0	0	0	47
	0.6	0.7	0.6	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
計	1,603	1,374	1,559	1,413	1,470	1,249	1,373	1,454	1,467	1,473	1,347	1,621	17,403
	76.3	76.3	70.9	70.7	70.0	62.5	65.4	72.7	73.4	77.5	74.8	73.7	71.9

## 5. 診療統計関係

### (1) 薬剤に関する概況

#### ① 処方せん発行枚数および調剤回数等

区分	処方せん発行枚数	調剤回数	延べ剤数
内用剤	13,348	19,510	389,355
外用剤		6,798	6,798
注射剤	1,636	2,601	2,894
計	14,984	28,909	399,047

#### ② 医薬品消費額

区分	消費額 (単位：円)
内用剤	20,938,338
外用剤	7,957,954
注射剤	6,269,530
計	35,165,822

#### ③ 製剤

区分	外用液剤 (滅菌)	外用液剤 (非滅菌)	外用固形剤 (非滅菌)	内用剤 (非滅菌)	注射剤 (IVH)	合 計
製剤種類	1	1	0	7	0	8
製剤回数	1	28	0	42	0	70



## (2) 臨床検査に関する概況

### ① 臨床検査業務統計表

		区分	院内検査件数				外部委託 件数(別掲)		
			入院	外来	請求外件数	総件数			
件 数 統 計	合計	1~8	11,186	15,765	23,164	50,115	853		
	尿・便等検査	1A、1B	141	535	767	1,443	0		
	髄液・精液等	1C、1Z	0	0	0	0	2		
	血液学的検査	2A~2C・2Z	958	1,167	1,491	3,616	12		
	生化学的検査	3A~3M・3Z	8,595	11,838	15,745	36,178	250		
	内分泌学的検査	4A~4H・4Z	177	227	222	626	95		
	免疫学的検査	5A~5K	1,102	1,694	3,204	6,000	451		
	微生物学的検査	6A~6C・6Z	213	304	1,735	2,252	5		
	病理組織検査	7B・7C・7D	0	0	0	0	1		
	細胞診検査	7A	0	0	0	0	37		
	機能検査	8A	0	0	0	0	0		
	染色体検査	8B	0	0	0	0	0		
	遺伝子検査	8C・8Z・7Z	0	0	0	0	0		
		合計	9	臨床検査技師実施件数				技師外実施 件数(別掲)	出張件数 (再掲)
			入院	外来	請求外件数	総件数			
			18	147	187	352	1,718	9	
生 理 機 能 検 査	心電図検査等	9A	14	145	187	346	0	9	
	脳波検査等	9B	0	1	0	1	0	0	
	呼吸機能検査等	9C	0	0	0	0	0	0	
	前庭・聴力機能検査等	9D	0	0	0	0	143	0	
	眼科関連機能検査等	9E	0	0	0	0	1,427	0	
	超音波検査等	9F	4	1	0	5	136	0	
	その他	9I・9G・9Z	0	0	0	0	12	0	
	穿刺・採取料等	9J	49	295	11	355	348	0	
			総数	計上内容等					
実 績 統 計	MRI件数		0	臨床検査技師が実施したMRI件数					
	内視鏡件数		0	臨床検査技師が介助した件数					
	病理解剖件数	7Z	全身	0	脳解剖を含む病理解剖数				
			一部のみ	0	脳解剖を含まないまたは脳解剖のみの病理解剖数 ただし屍検は含まない				
	輸血管理部門の取扱い状況		*****						
	在庫数	製剤数	17	在庫した血液製剤バッグ数					
	出庫数	製剤数	17	輸血管理室から出庫した血液製剤バッグ数					
	輸血済み血液製剤数	製剤数	17	輸血が実施された血液製剤バッグ数					
	血液製剤廃棄率	%	0.00	自己血を除く血液製剤廃棄率(年度通算)					
	病理組織ブロック数	個	0	病理解剖を除くブロック数					
	免疫染色枚数(病理)	枚	3	のべ染色枚数(組織および細胞)					
	特殊染色枚数(病理)	枚	5	のべ染色枚数(組織および細胞)					
	医療機器保守点検件数	件数	48	検査部門内外の医療機器点検件数					
	各種チーム医療連携業務	件数	72.00	チーム医療連携業務の件数およびタスク・シフト/シェア業務の時間数					
	各種指導・教室等実施状況	件数	0	DM教室、新人職員または臨地実習などのオリエンテーション					
	治験取扱い患者人数	患者数	0	採血、生理機能検査、検体前処理等の回数に関係なく1患者1件					
	臨床研究取扱い患者人数	患者数	0	院内の倫理委員会で承認された研究に関する扱い患者数					
	実習・研修等受入れ状況	単位	0	計算式=受け入れ日数(1日を8時間として)×人数					
				入院	外来	総件数	計上内容等		
	ホルター心電図等解析件数	件数	0	0	0	ホルターECG・血圧計、PSG、SASなどの解析件数			
超音波検査等所見記載件数	件数	0	0	0	計測、解析や超音波検査や脳波検査などの所見を記載した件数				
小児・重心・筋ジス・精神患者検査件数	患者数	0	0	0	小児(14歳以下)、重心・筋ジス・精神患者を検査した件数(項目限定)				
検査説明・相談件数	件数	0	0	0	説明あるいは相談に5分以上を要した件数				
鼻腔ぬぐい液等検体採取件数	件数	49	33	82	臨床検査技師が採取した件数				
採血管準備患者数	患者数	614	282	896	検査部門で採血管準備した患者数(職員健診分は除く)				
静脈採血患者数	患者数	0	282	282	検査技師が静脈採血した患者数(職員健診や接触者健診分などは除く)				

② 外部精度管理参加状況

メーカー名/事業名	部門	実施日	参加項目	報告日	評価	修了書
積水メデイカル株式会社	生化学	2021/4/22	HDL LDL CHO TG	2021/5/11	期待値内	無
富士フイルムメデイカル株式会社	生化学	2021/6/29	NH3-W	2021/6/29	A	有
2021年度『データミナーサーベイ』 (日立化成ダイアグノスティックス)	生化学	2021/6/23	GLU, UA, BUN, CRE, T-CHO, TG, HDL-C, LDL-C, IP	2021/6/29	評価A+B (17/18) 評価C(UA)	無
第157回『SQC「尿検査」』(シーメンス)	一般	2021/6/14	尿定性	2021/6/14	期待値内	無
第158回『SQC「尿検査」』(シーメンス)	一般	2021/9/13	尿定性	2021/9/21	期待値内	無
第159回『SQC「尿検査」』(シーメンス)	一般	2021/12/30	尿定性	2021/12/30	期待値内	無
2021年『ABBOTT CONTROL SURVEY』	免疫	2021/7/22	HBsAg, HBsAb, HCV, AFP, CEA, CA19-9, Ferritin, PSA, TSH, FT3, FT4	2021/7/22	期待値内	無
2021年度『東ソーHbA1cコントロールサーベイ』 (東ソー)	生化学	2021/7/20	HbA1c	2021/7/21	期待値内	無
第22回イムノアッセイTMJコントロールサーベイ	免疫	2021/9/12	AFP CA19-9 CEA PSA β2MG フェリチン TSH Free-T3 Free-T4	2021/9/12	期待値内	無
2021年度シノテストサーベイ	生化学	2021/11/28	UIBC	2021/11/28	期待値内	有
2021年度(第55回)『日本医師会精度管理調査』	生化・免疫・ 血液・一般	2021/9/7	臨床化学・免疫血清・血液・ 一般	2021/9/14	95.6 評価C:ヘマトクリット、 尿酸	有
2021年度『都臨技臨床検査精度管理調査』	生化・血液・ 輸血	2021/10/17	臨床化学・血液・輸血	2021/10/25	評価A+B (92/92)	有

③ 研究検査科令和3年度認定資格取得者状況

認定資格	認定機関	取得者
有機溶剤作業主任者	社会法人 労働基準協会連合会	平本研二
特定化学物質作業主任者	社会法人 労働基準協会連合会	平本研二 青木正哉
毒物劇物取扱責任者	東京都福祉保健局	青木正哉
緊急臨床検査士	日本臨床検査同学院	平本研二
二級臨床検査士：病理学	日本臨床検査同学院	平本研二 青木正哉
二級臨床検査士：血液学	日本臨床検査同学院	望月規央
二級臨床検査士：微生物学 (寄生虫含む)	日本臨床検査同学院	望月規央 久高果市
超音波検査士 (消化器領域)	公益社団法人日本超音波医学会	渡邊孝浩
認定臨床微生物検査技師	認定臨床微生物検査技師制度協議会 (7団体)	望月規央
感染制御認定臨床微生物検査技師 (ICMT)	ICMT制度協議会 (7団体)	望月規央
感染制御スタッフ (ICS)	四病院団体協議会	望月規央
細胞検査士	日本臨床細胞学会	平本研二 青木正哉
国際細胞検査士	日本臨床細胞学会	平本研二 青木正哉
POCT測定認定士	日本臨床検査同学院	早川真奈美

### (3) リハビリテーション科に関する概況

#### ① 実施件数（PT・OT・ST 部門別） 理学療法部門

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
理学療法		989	917	1,012	1,015	1,013	970	1,065	990	1,006	920	882	999	982
物理療法 (ホットパック)		243	222	267	218	209	215	230	243	254	252	241	292	241
物理療法 (その他) ※1		28	31	26	17	13	20	26	14	14	14	16	15	20
ベッドサイド		129	133	115	105	127	118	146	121	146	151	137	125	129
家屋評価		3	9	4	7	5	9	8	8	5	6	7	7	7
カンファレンス※2		1	2	0	0	2	9	2	3	3	2	1	3	2

※1：その他とは、スパーライザー、牽引をさす

※2：病棟、センターで実施される症例カンファレンス、デスカンファレンスをさす

#### 作業療法部門

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
作業療法 (棒体操除く)		388	336	427	391	371	361	374	312	176	169	172	213	308
棒体操 ※3		77	66	52	62	70	59	69	62	57	50	59	65	62
前頭葉Jハ		6	8	8	6	3	0	0	0	0	0	4	0	3
認知機能検査		0	4	0	3	0	2	0	1	1	1	0	1	1
合計 (棒体操含む) ※3		465	402	479	453	441	420	443	374	233	219	231	278	370

※3：作業療法部門における棒体操は小集団で実施のため合計件数に含まれる

#### 言語聴覚療法部門

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
言語聴覚療法		200	155	216	180	143	174	179	164	151	153	131	167	168

② 新患件数 (PT・OT・ST 部門別) (件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
理学療法	2	1	5	5	1	1	0	4	0	1	1	0	1.8
作業療法	2	1	2	2	0	0	1	1	0	1	2	0	1.0
言語聴覚療法	3	1	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0.8

新患件数	※4	3件/月
処方件数	※5	19件/月
実働日数	※6	20日/月

※4.5.6: PT, OT, ST 全部門の平均値をさす

③ 患者所属別 実施者数 (人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
第1病棟	112	135	141	154	158	140	153	120	105	119	96	130	130
やすらぎ病棟	260	212	246	224	210	201	209	183	169	165	161	188	202
第1センタ-	404	375	424	404	423	425	428	402	394	366	357	396	400
第3西センタ-	304	270	314	286	277	255	279	279	290	258	247	283	279
一般寮	204	174	204	183	173	195	225	222	207	162	162	203	193
外来	17	16	18	16	13	13	14	13	11	11	11	13	14
第二共済	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,301	1,182	1,347	1,267	1,254	1,229	1,308	1,219	1,176	1,081	1,034	1,213	1,218

④ 義肢装具処方件数 (件)

区分	年度	令和2年度			令和3年度		
		新規	更新	修理	新規	更新	修理
義肢		0	1	0	1	2	1
装具		69	32	5	72	18	10
自器具			71			44	
その他	※1		57			62	
合計			235			210	
調整等	※2		245			242	

※1: 家屋改修、褥瘡予防関連、車椅子・歩行器改良など

※2: 処方以外に細かな調整や修理、試作等が増加しているため、計上している

#### (4) 放射線科に関する概況

##### ① 撮影機器別件数一覧表（入所者のみ）

*	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
一般撮影	1,381	1,635	1,420	1,051	1,053
透視撮影	3	3	1	1	11
CT撮影	356	298	308	354	343
移動撮影	74	45	76	48	67
乳腺撮影	0	0	0	0	0
歯科撮影	60	113	140	100	60
骨密度測定				150	165
合計	1,874	2,094	1,945	1,554	1,534

##### ② 外部委託読影件数（入所者のみ）

検査項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入所者CT検査	215	269	251
入所者胸部検診	165	122	114
合計	380	391	365

##### ③ 放射線画像入出力数（入所者のみ）

*	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
園内画像出力	19	30	22	18	23
園外画像取込	34	39	29	21	36

(5) 栄養管理室に関する概況

① 年間入所者数

区 分		入所者数	分類	比率 (%)	
一	般 食	28,229	A	63.0	A/G
特 別 食	加 算 食	6,823	B	15.2	B/G
	非 加 算 食	9,405	C	21.0	C/G
	特 別 食 小 計	16,228	D	36.2	D/G
喫 食 入 所 者 数 小 計		44,457	E	99.3	E/G
欠 食 ・ 外 泊		329	F	0.7	F/G
総 合 計		44,786	G	100.0	

② 年間入所者食数

区 分		食数	分類	比率 (%)	
一	般 食	84,590	A	63.4	A/G
特 別 食	加 算 食	20,448	B	15.3	B/G
	非 加 算 食	28,168	C	21.1	C/G
	特 別 食 小 計	48,616	D	36.4	D/G
入 所 者 食 数 小 計		133,206	E	99.8	E/G
禁 食		267	F	0.2	F/G
総 合 計		133,473	G	100.0	

③ 行事食、選択食年間実施数

区 分	実 施 数
行 事 食 実 施 回 数	43 回
選 択 食 実 施 回 数	85 回
選 択 食 実 施 人 数	5,067 人

④ 栄養食事指導、病棟訪問年間実施数

区 分	合計実施数	内 訳		
		糖 尿 病	高 血 圧 症	そ の 他
個 人 栄 養 食 事 指 導 件 数	4 人	1	1	2
病 棟 訪 問 実 施 人 数	64 人			

⑤ チーム医療カンファレンス年間実施数

区 分	実 施 数
褥 瘡 カ ン フ ァ レ ン ス	10 回
病 棟 カ ン フ ァ レ ン ス	22 回
N S T カ ン フ ァ レ ン ス	10 回
認 知 症 ケ ア カ ン フ ァ レ ン ス	10 回

(延べ人数 24人)

## 6. 医療事故分析報告

### (1) 内容別件数

内容	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4	レベル5	合計
1 薬 剤	85	32	8	0	0	0	0	125
2 輸 血	0	0	0	0	0	0	0	0
3 治療・処置	28	35	13	0	0	0	0	76
4 医療機器等	1	0	0	0	0	0	0	1
5 ドレーンチューブ	0	3	2	1	0	0	0	6
6 検査に関すること	4	2	0	0	0	0	0	6
7 療養上の世話	27	17	101	131	5	0	0	281
療養上の世話の計画または指示								0
療養上の世話の管理、準備、実施	27	17	101	131	5	0	0	281
転倒・転落	0	9	76	45	4	0	0	134
熱 傷	0	0	6	6	0	0	0	12
表皮剥離	2	4	14	78	1	0	0	99
誤嚥・誤飲	2	0	1	1	0	0	0	4
その他	23	4	4	1	0	0	0	32
8 その他	60	11	2	2	0	0	0	75
合 計	205	100	126	134	5	0	0	570

### (2) 部署別報告件数

部署	発生件数
1病棟	85
やすらぎ病棟	124
新センター	0
第1センター	84
第3西センター	140
第1治療棟	55
第2・3治療棟	26
夜勤外来	0
薬剤科	29
検査科	3
栄養科	11
リハ科	5
医局	4
庶務課	0
その他	4
合 計	570

### (3) 職種別報告件数

職種	発生件数
医 師	4
看護師(含准看護師)	471
看護助手	44
薬剤師	29
臨床検査技師	3
理学療法士・作業療法士等	5
栄養士・調理師等	11
診療放射線技師	2
事務	0
その他	1
合 計	570

### (4) 発生曜日別件数

	発生件数
平 日	431
土・日曜日(休日)	139
合 計	570

### (5) 発生時間帯

	発生件数
日勤	416
準夜	86
深夜	68
不明	0
合 計	570

### (6) 患者年齢別

	発生件数
50歳代	0
60歳代	4
70歳代	63
80歳代	253
90歳代	162
100歳以上	59
複数(1事例で2名以上)	8
不 明(医療機器等で患者存在せず・職員)	21
合 計	570



## 7. 看護学校関係

### (1) 学生数

( ) 男子再掲

学 年	学 生 数			
	学生定員	現員数 (男子再掲)	寄宿舎生数	通学生数
1年生 (第54回生)	20	17 (4)	2 (2)	15 (2)
2年生 (第53回生)	20	20 (5)	5 (3)	15 (2)

### (2) 応募・入学・卒業状況

回 生	入学年度	応募者	受験者	入学者	入学男子	退学者	卒業者数	倍率
53	R2	自己14 一般21	自己14 一般21	20	5			自己3.5 一般1.3
54	R3	自己19 一般19	自己19 一般19	17	4			自己3.5 一般1.3

### (3) 一般学歴

年 度	入学者学歴						准看護学校	
	大学	短大	高校	衛生看護科	中学	その他 (大検等)	当該年度	当該年度外
R2	4 (1)	1 (1)	13 (3)			1	17 (4)	3 (1)
R3	4 (1)	4	8 (3)			1	11 (2)	6 (2)

### (4) 年齢別

年 度	回 生	18歳	19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳以上	最高年齢
R2	53			1	1	4	14	54
R3	54			1	3	1	12	52

### (5) 出身都道府県別

年度	北海道	青森	宮城	秋田	山形	福島	群馬	茨城	栃木	埼玉	千葉	東京	神奈川	山梨	長野	富山	石川	静岡	愛知	兵庫	大阪	和歌山	岡山	広島	山口	高知	香川	愛媛	福岡	熊本	鹿児島	佐賀	長崎
R2									8		11			1																			
R3	1									9	7																						

### (6) 卒業生進路状況

卒業年度	卒業人数	就 職											未定	進 学					
		国立高度医療専門医療センター		ハンセン療養所		国立病院機構		委託治療施設	官公立公的病院	法人その他の病院	助産師学校	保健師学校		大 学					
		研究センター	循環器病研究センター	精神神経医療研究センター	国際医療研究センター	成育医療研究センター	自施設								他施設	実習施設	実習外		
R2	13									1	1	2	1	2	1	5			
R3	20		2							3		1				10			

### (7) 国家試験合格状況

年 度	回 生	卒業者数	受験者数	合格者数	合格率	既卒者合格率
R2	52	13	13	13	100	
R3	53	20	20	20	100	

## 国立療養所多磨全生園年報編集委員会委員

---

委員長	三宅 智	(副園長)
委員	村上 龍司	(内科医長)
委員	尾崎 正之	(歯科医師)
委員	山崎 英明	(薬剤科長)
委員	高橋 勝	(副看護部長)
委員	土師 宏之	(庶務課長)
委員	府川 良治	(福祉課長)
委員	大竹 正伸	(人事課長)
委員	渡邊 一人	(会計第二課長)
委員	押尾 知子	(教育主事)

---

---

発行年月日	令和5年3月
発行者	国立療養所多磨全生園 〒189-8550 東京都東村山市青葉町4-1-1 電話042-395-1101
発行責任者	正木 尚彦
編集者	国立療養所多磨全生園年報編集委員会
印刷・製本	社会福祉法人 東京コロニー コロニー東村山印刷所

---

---

